

番号	遺跡名	種別	時代
20001	藤原神社遺跡	敷布地	縄文前期、古代
20002	松島神社遺跡	瓦葺	中世
20003	清水町遺跡	貝塚、埴輪	弥生、古墳、平安
20004	長瀬遺跡	貝塚、製塩	古墳後期～平安
20005	松島神社遺跡	横穴墓	古代
20006	水浜遺跡	集落、貝塚、製塩	弥生、平安
20007	神前遺跡	敷布地	古代
20008	新田遺跡	敷布地	平安
20009	土浜A貝塚	貝塚、製塩	弥生、古代
20010	土浜B貝塚	貝塚、製塩	平安
20011	五山遺跡	製塩	弥生、平安
20012	小友遺跡	製塩	弥生、古代
20013	長瀬遺跡	集落、貝塚	古代?
20014	沢上貝塚	貝塚	縄文後期
20015	兼貝塚	貝塚	縄文後期、古代
20016	小畑貝塚	敷布地	縄文後期、弥生、古代
20017	清水町遺跡	貝塚、製塩	古代
20018	左邊遺跡	集落、製塩	縄文前期、古代
20019	吉田神社遺跡	敷布地	古代
20020	藤ヶ谷貝塚	集落、貝塚	縄文前・中期
20021	東原遺跡	敷布地	古代
20022	藤原神社遺跡	貝塚、製塩	縄文後期、古代
20023	松山貝塚	貝塚、製塩	縄文後期、弥生
20024	大木遺跡	瓦葺	中世
20025	水浜横穴墓	横穴墓	古墳後期
20026	沢上貝塚	貝塚	縄文後期、弥生、平安
20027	下田遺跡	集落	古代?
20028	新田貝塚	貝塚、製塩	縄文後期、弥生
20029	亀ヶ嶽山横穴墓群	横穴墓	縄文後期、弥生
20030	砂山横穴墓群	横穴墓	古墳後期、奈良
20031	井上A遺跡	敷布地	古代
20032	井上B遺跡	敷布地	古代
20033	井上C遺跡	敷布地	古代
20034	井上D遺跡	敷布地	古代
20035	井上E遺跡	敷布地	古代
20036	井上F遺跡	敷布地	古代
20037	井上G遺跡	敷布地	古代
20038	井上H遺跡	敷布地	古代
20039	井上I遺跡	敷布地	古代
20040	井上J遺跡	敷布地	古代
20041	井上K遺跡	敷布地	古代
20042	井上L遺跡	敷布地	古代
20043	井上M遺跡	敷布地	古代
20044	井上N遺跡	敷布地	古代
20045	井上O遺跡	敷布地	古代
20046	井上P遺跡	敷布地	古代
20047	井上Q遺跡	敷布地	古代
20048	井上R遺跡	敷布地	古代
20049	井上S遺跡	敷布地	古代
20050	井上T遺跡	敷布地	古代
20051	井上U遺跡	敷布地	古代
20052	井上V遺跡	敷布地	古代

番号	遺跡名	種別	時代
20001	林崎貝塚	貝塚、製塩	縄文後期、弥生
20002	二月田(空島)貝塚	集落、貝塚	縄文後・弥生、弥生、奈良
20003	夜浜貝塚	貝塚、製塩	古墳後期～平安
20004	松ヶ谷貝塚	貝塚、貝塚	縄文前・中期
20005	東宮(高島寺)貝塚	貝塚、製塩	縄文後・弥生、弥生、平安
20006	高安貝塚	集落、貝塚	縄文前期～後期
20007	向山(沢)貝塚	貝塚	縄文後期、弥生
20008	吉田(山)貝塚	貝塚	縄文前期
20009	高島貝塚	貝塚	平安
20010	吉田遺跡	瓦葺	中世
20011	藤原神社横穴墓群	横穴墓	古墳後期～奈良、平安
20012	高島横穴墓群	横穴墓	弥生、平安

■ 本書で報告する遺跡 ■ 津波浸水地域
 ※番号は遺跡登録番号を表す
 0 1km 港
 (S=1/25,000)

第1図 七ヶ浜町内および周辺の遺跡

番号	本書報告	調査年度	遺跡名	調査原因	事業主体者	調査地	調査面積	調査期間	遺跡等の有無	内容
1	○		諏訪神社前遺跡	災害公営住宅整備	七ヶ浜町	七ヶ浜町葛蒲田浜字林合	220㎡	平成24年6月1日～6月19日	○	縄文土器、製塩土器(縄文晩期)
2	○		長須賀遺跡(3次)	県道改良	宮城県 仙台土木事務所	七ヶ浜町花洲浜字長須賀	1000㎡	平成24年6月22日～8月10日	○	古墳後期～平安：製塩炉、貝塚、遺物包含層
3	○	平成24年度	高山橋六蔵群	防潮堤改修	宮城県 仙台土木事務所	七ヶ浜町花洲浜字浜沼	100㎡	平成24年6月27日～6月29日 平成24年7月29日～8月3日	○	古墳後期～平安：横穴墓3基、土師器、須恵器
4	○		峯貝塚(隣接地)	災害公営住宅整備 高台住宅団地整備 地区避難所整備	七ヶ浜町	七ヶ浜町代ヶ崎浜字立花	10㎡	平成24年11月13日～11月22日	—	遺構、遺物なし
5	○		二月田貝塚 (隣接地)	災害公営住宅整備 高台住宅団地整備		七ヶ浜町吉田浜字台	129㎡	平成25年4月5日～4月17日	—	遺構、遺物なし
6	○	平成25年度	表浜貝塚(5次)	津波防災緑地 (都市公園)整備	七ヶ浜町	七ヶ浜町花洲浜字表浜一、表浜二、浜沼	1120㎡	平成25年8月1日～平成26年1月30日	○	古墳後期～平安：製塩炉、貝塚、土師器、須恵器
7	○		長須賀遺跡(4次)	雨水排水路整備 造成発生土仮置き場整備		七ヶ浜町花洲浜字長須賀	210㎡	平成26年2月13日～4月16日	○	奈良・平安：遺物包含層、製塩土器
8	○		林崎貝塚			七ヶ浜町松ヶ浜字新林崎	79㎡	平成26年5月8日～7月18日	○	縄文晩期：製塩炉、貝塚、遺物包含層
9	○		阿川沼貝塚			七ヶ浜町葛蒲田浜字新小塚	26㎡	平成26年7月18日～7月29日	—	遺構、遺物なし
10	○		沢上貝塚			七ヶ浜町代ヶ崎浜字沢ノ上	19㎡	平成26年8月20日～8月29日	—	遺構、遺物なし
11	○		東原遺跡			七ヶ浜町葛蒲田浜字新東原	86㎡	平成26年9月5日～10月14日	—	遺構、遺物なし
12	○	平成26年度	二月田貝塚	農山漁村地域復興 基礎総合整備事業	宮城県 仙台地方振興事務所	七ヶ浜町吉田浜字新二月田	33㎡	平成26年10月15日～11月21日	○	縄文晩期・弥生：遺物包含層、縄文・弥生土器、植物遺存体
13	○		神明遺跡			七ヶ浜町代ヶ崎浜字向田	10㎡	平成26年10月30日～11月21日	—	遺構、遺物なし
14	○		笹山貝塚			七ヶ浜町松ヶ浜字笹山	134㎡	平成26年11月19日～平成27年1月23日	—	遺構、遺物なし
15	○		鼻筋神社遺跡			七ヶ浜町花洲浜字新清水沢	13㎡	平成27年1月15日～1月23日	—	遺構、遺物なし
16	○		表浜貝塚(6次)	津波防災緑地 (都市公園)整備	七ヶ浜町	七ヶ浜町花洲浜字表浜一、表浜二、浜沼	30㎡	平成27年2月17日～3月17日	—	遺構、遺物なし
17	○		表浜貝塚(7次)				47㎡	平成27年5月22日～7月3日	—	遺構、遺物なし
18	—	平成27年度	表浜貝塚(8次)	津波防災緑地 (都市公園)整備	七ヶ浜町	七ヶ浜町花洲浜字表浜一、表浜二、浜沼	53㎡	平成27年9月29日～12月18日	○	奈良・平安：遺物包含層、炉跡、貝塚、土師器、須恵器、製塩土器

第1表 復興交付金事業による発掘調査実施遺跡一覧表 平成24～27年度

し、遺構検出、遺構調査、断面観察、平面図・断面図等作成、写真撮影を行い、調査の工程が完了した後に埋め戻しを行った。掘削深度は遺構検出面を基本としたが、一部で地山面まで掘り下げる場合や工作物の設置深度で掘削を終える場合があった。

第2章 震災復興事業関連遺跡の発掘調査（確認調査）

1 諏訪神社前遺跡（第2～4図、写真図版1）

（1）遺跡の概要

諏訪神社前遺跡は、七ヶ浜町菖蒲田浜字林合地内に所在する縄文時代晩期を主体とするの貝塚・製塩遺跡である（第2図）。遺跡北東側から内陸部に海水が流入し形成された古阿川湾の湾口部の緩斜面上に位置する。現況は畑地である。これまで詳細な調査は行われていないが、周辺では縄文時代晩期の土器や製塩土器、土師器・須恵器などが表採されている。地表にはハマグリやアサリなどの貝殻も散布しており、貝層も伴っていると考えられる。周辺には鬼ノ神山貝塚や阿川沼貝塚、笹山貝塚、林崎貝塚など縄文時代晩期中葉～末葉（大洞C2～A'式）、弥生時代中期の貝塚・製塩遺跡が点在しており、本遺跡もこうした製塩遺跡群の一つと考えられる。

（2）調査要項

遺跡名 諏訪神社前遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 20036）

調査地 七ヶ浜町菖蒲田浜字林合地内

調査原因 菖蒲田浜地区災害公営住宅整備

調査担当 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）

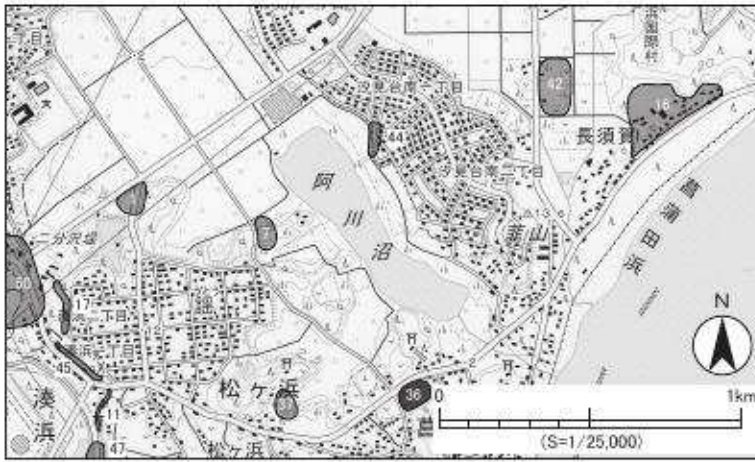
調査期間 平成24（2012）年6月1日～6月19日 対象面積 約15,660㎡ 調査面積 220㎡

（3）調査の概要と成果

災害公営住宅は、鉄筋コンクリート構造3階建5棟から構成され、100戸分の整備が計画されていた。事業計画図から遺跡のほぼ全体が計画地に含まれることから、事業地の約15,660㎡を対象に確認調査を実施した。遺構・遺物の有無及び遺跡範囲を確認するために、計画地内にトレンチ12本（1～12トレンチ）を設定し、重機で掘削を行った（第3図）。計画地は過去に嵩上げを伴う畑地造成が行われており、ほとんどのトレンチで最大3mの盛土を確認した。9・11トレンチでは南東側丘陵の地山と考えられる凝灰岩を確認した。一部のトレンチでは湧水が激しいため、写真撮影後にすぐに埋め戻しを行った。今回の調査では、諏訪神社前遺跡に関する遺構は検出されなかったが、遺跡南東側の丘陵端部で縄文時代晩期中葉（大洞C2式）の赤彩壺片を含む土器片や製塩土器などを表採した（第4図1～11）。掘削後に写真撮影、土層堆積状況の観察・記録を行った後に、重機で埋め戻しを行った。

（4）まとめ

今回の確認調査では、遺構は検出されず、遺跡範囲の大部分が畑地造成の際に削平され、盛土が入れていることが明らかになった。また、遺物が表採された南東側丘陵の裾部は遺構が残存している可能性があったが、計画では駐車場や広場が整備されるエリアで、丘陵を大きく掘削する計画でないことから、保存が図られると判断した。以上のことから、計画地での工事は当初の計画通りに実施して問題がないと判断した。



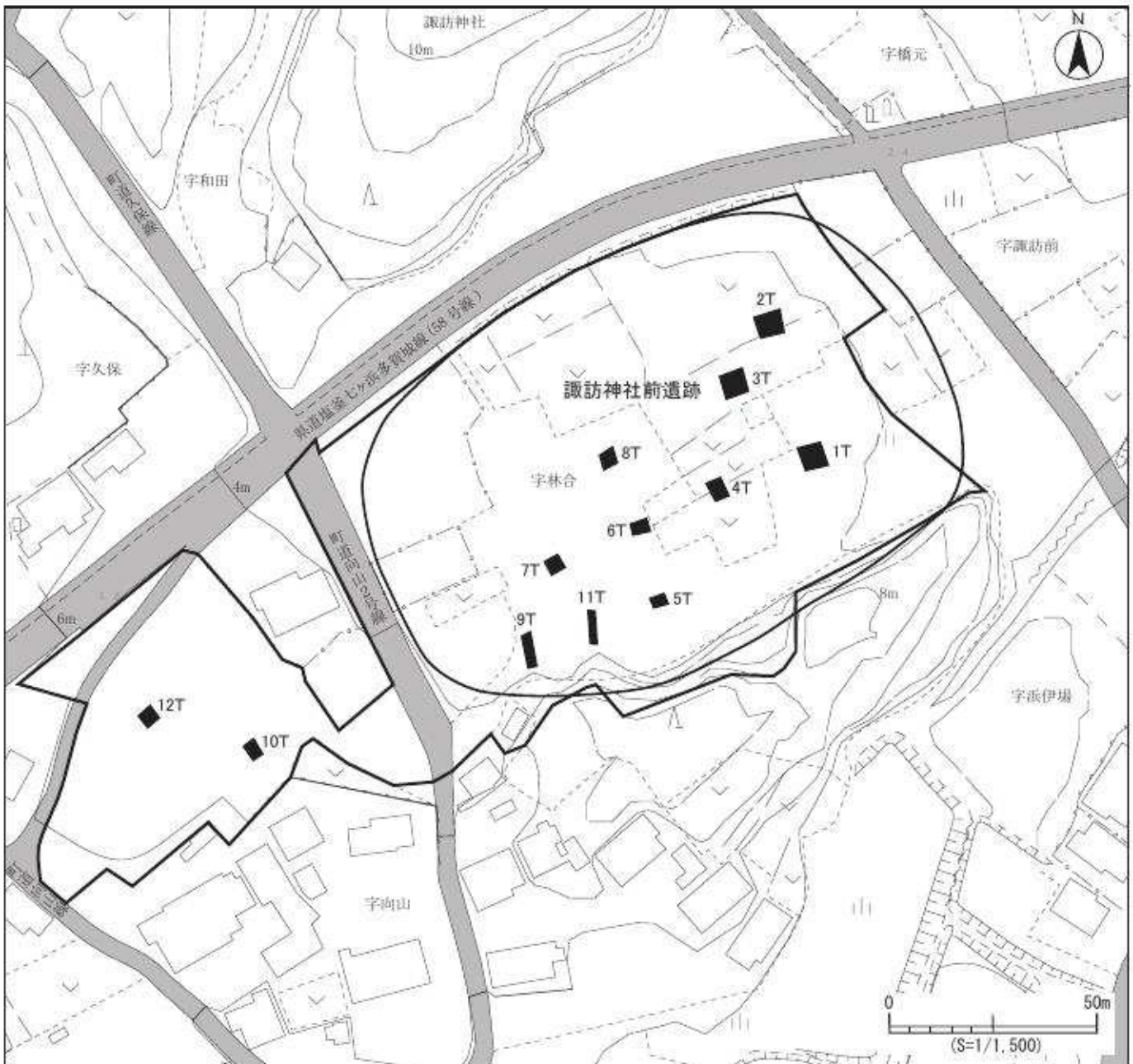
第2図 諏訪神社前遺跡の位置と周辺の遺跡

諏訪神社前遺跡

所在地		時代	
七ヶ浜町菖蒲田浜字林合		縄文晩期	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20036	なし	貝塚・製塩	緩斜面地
出土品 縄文土器・製塩土器ほか			

周辺の遺跡

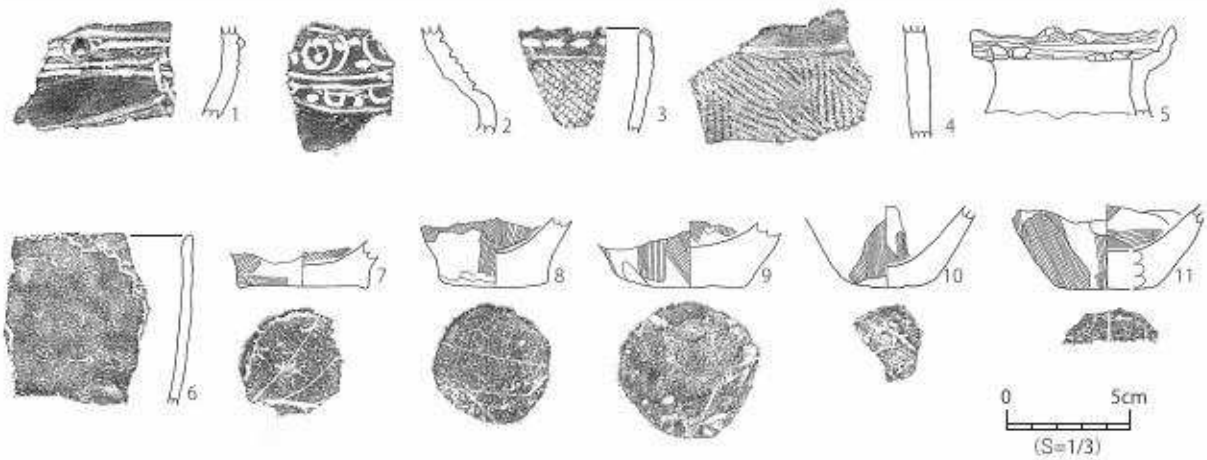
- 1: 林崎貝塚 (縄文・弥生)
- 7: 阿川沼貝塚 (縄文・弥生)
- 11: 粟師堂横穴墓群 (古墳後期～古代)
- 16: 長須賀遺跡 (古墳後期～平安)
- 17: 樹形囲横穴墓群 (古代) 37: 笹山貝塚 (縄文・弥生)
- 42: 東原遺跡 (古代) 44: 鬼ノ神山横穴墓群 (古代)
- 47: 弁天A遺跡 (古代) 50: 新田前遺跡 (古代)



□: 災害公営住宅整備範囲

第3図 トレンチ配置図

公営住宅整備後の平成27年度に、南東側丘陵の斜面で貝類や土器片が露出しているのを発見した。風雨による流出防止のために、表面に露出している部分のみ篩がけを行い、遺物の取り上げを行った。原位置を保っていると考えられる下層部分については、土嚢袋による保護措置をとり、現地保存とした。取り上げた遺物はハマグリが大半を占める貝類と縄文時代晩期の土器片、製塩土器片である。



番号	トレンチ遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真図版	縮尺
4-1	—	表探	深鉢	外面：沈線、ミガキ、粘土粒貼付 内面：ナデ	—	—	—	諏-1	—	1/3
4-2	—	表探	注口土器	外面：沈線、竹管文、刺突、ナデ、ミガキ 内面：ナデ	—	—	—	諏-10	—	1/3
4-3	—	表探	深鉢	平縁 外面：列点文、沈線、RL縄文 内面：ナデ	—	—	—	諏-8	—	1/3
4-4	—	表探	深鉢	外面：RL縄文 内面：ナデ	—	—	—	諏-7	—	1/3
4-5	—	表探	壺	外面：平縁+二個一對の突起、沈線、二個一對の貼瘤文、ミガキ 内面：ミガキ 内外面に赤色顔料付着	8.1	(3.5)	—	諏-5	—	1/3
4-6	—	表探	製塩土器	外面：ナデ、輪積痕、剥離 内面：ナデ	—	—	—	諏-4	—	1/3
4-7	—	表探	製塩土器	内外面：ナデ 底面：木葉痕	—	(1.9)	(5.0)	諏-2	—	1/3
4-8	—	表探	製塩土器	外面：ナデ、ケズリ、剥離 内面：ヘラナデ 底面：木葉痕	—	(2.8)	4.3	諏-3	—	1/3
4-9	—	表探	製塩土器	内外面：ヘラナデ 底面：木葉痕（一部）	—	(2.6)	5.1	諏-6	—	1/3
4-10	—	表探	製塩土器	外面：ケズリ風ヘラナデ 内面：ヘラナデ 底面：ヘラナデ	—	(3.2)	(2.8)	諏-11	—	1/3
4-11	—	表探	製塩土器	外面：ケズリ風ヘラナデ 内面：指ナデ 底面：木葉痕	—	(3.3)	(4.0)	諏-9	—	1/3

第4図 諏訪神社前遺跡出土土器

2 長須賀遺跡（第5～13図、写真図版2～5、25）

（1）遺跡の概要

長須賀遺跡は七ヶ浜町花洲浜字長須賀地内に所在する古墳時代後期～平安時代の貝塚・製塩遺跡である。町内には水浜遺跡や土浜A・B貝塚、表浜貝塚など陸奥国府多賀城へ塩を供給する、平安時代の製塩遺跡が点在しており（第5図）、本遺跡もこのような製塩遺跡群の一つと考えられる。遺跡は菖蒲田海水浴場の北東側に広がる浜堤上に立地し、現海岸線からは約150mの距離にある（第6図）。遺跡周辺は震災以前、畑地と宅地であった。昭和44・45（1969・70）年に東北学院大学工学部技術史研究会による2地点の発掘調査（1次調査）が行われており、古代の製塩炉と製塩土器集中遺構を検出し、土師器、須恵器、厚手の製塩土器片などが出土している。昭和63（1986）年には個人住宅建築に伴う確認調査（2次調査）が行われており、今回の調査は3・4次調査にあたる。

（2）調査要項

遺跡名 長須賀遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 20006）
調査地 七ヶ浜町花洲浜字長須賀地内
調査原因 24年度（3次調査） 県道改良事業
25年度（4次調査） 高台移転地雨水排水路整備、高台移転地造成発生土仮置き場整備
調査協力 宮城県教育委員会（24年度）
調査担当 24年度 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）、古田和誠・山中信宏（宮城県教育庁文化財保護課）
三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）、遠藤 武（愛媛県派遣）
25年度 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）
調査期間 24年度（3次） 平成24（2012）年6月22日～8月10日
（6月26日～8月1日に宮城県教育庁文化財保護課協力）
25年度（4次） 平成26（2014）年2月13日～4月16日
対象面積 24年度：約20,000㎡ 25年度：雨水排水路 144.5㎡ 造成発生土仮置き場 約42,000㎡
調査面積 24年度（3次）：1,000㎡ 25年度（4次）：210㎡

（3）調査の方法

24年度（3次調査）

24年度は、県道改良事業の計画地にあたる遺跡西側を中心に確認調査を実施した（第7図）。遺構・遺物の有無及び遺跡範囲を確認するために、計画地内に長さ約10～130m、幅約1.5mのトレンチを東西・南北方向に16本設定した。調査区南側で古代の土器や破砕貝類を含む黒褐色砂質シルト層（2層）を確認したため、2トレンチで一部断割り調査を行った。その結果、2層については、それ以前のやや起伏がある地形を平坦に埋め立てていること、表土直下であること、下層を掘り込んだ遺構の堆積土に灰白色火山灰とみられる火山灰が含まれることから、近世・近代の整地層とみられることが分かった。過去の農地区画整理工事の際に遺跡周辺の耕作土等を重機で均したとの情報もあり、表土直下の遺物や隣接する東原遺跡の遺物などが混在している可能性が高い。また、2層より下層に古代の遺構面が残存しており、奈良・平安時代の炉跡・土坑・ピットが分布することがわかった。そのため、2・4・13トレンチにおいてトレンチ東・南半部を古代の遺構面まで掘下げ、遺構検出を行った。13トレンチ西側は湧水のため調査できなかった。出土遺物に古墳時代の土器が含まれることから、古代の遺構面より下層を調査するために、4トレンチの2カ所で重機による深堀調査を実施した（第8図）。その結果、5層以下も50cm程度砂層が続くことを確認したが、トレンチ壁の崩落と湧水により、土層の確認や遺構検出は行うことができなかった。

基本層序は調査区北側（丘陵側）と調査区南側（海岸側）で異なっていた（第9図）。調査区北側では黒色土が発達しており、4 d層が奈良・平安時代の遺構確認面である。調査区南側では破碎された貝類を含む砂層や一部には均質な砂層が堆積しており、5 a層が遺構確認面である。

各トレンチの精査後に、遺構平面図・トレンチ平面図・土層断面図の作成、写真撮影を行った。遺構平面図、トレンチ平面図の測量は電子平板を使用した。測量作業終了後に重機で埋め戻しを行った。

25年度（4次調査）

25年度は、遺跡北側の丘陵上に整備される高台移転地の雨水排水路整備と高台移転地造成による発生土の仮置き場整備の計画地に遺跡の一部が含まれることから、確認調査を実施した（第7図）。遺構・遺物の有無及び遺跡の範囲を確認するために、24年度調査地点の北東側に3本（17～19トレンチ）、東側に1本（25トレンチ）、雨水排水路整備ルート付近に1本（20トレンチ）、県道沿いに4本（21～24トレンチ）の計9本のトレンチを設定し、重機を使用して掘削を行った。25トレンチ付近は丘陵が岬状に突き出しており、これより南西側を当初は遺跡の範囲と捉えていたが、25トレンチの成果から遺跡はより北東側に拡がることになった。17・18トレンチでは湧水のために詳細な調査はできなかったが、遺構等は確認できなかった。21～25トレンチでは旧表土の上に住宅建築の際の盛土が堆積しており、21・22トレンチで30～40cm、20T・23～25Tでは60cm～1.9mと遺跡北東側に厚く盛土が堆積していた。掘削後に写真撮影、土層断面図の作成（第10図）を行った後に、重機で埋め戻しを行った。

（4）発見された遺構と遺物

24年度（3次調査）

遺構：2・4・13トレンチから炉跡14基、土坑16基、ピットが多数検出されている。残りのよいSX7をみると、浅い掘方を砂で埋め戻した後に粘土または粘土質シルトで貼床し、その上面に礫で3～4箇所石組みをして、炉として使用しているとみられる。そのため、検出面及び堆積土に粘土や粘土質シルト、焼土が含まれる遺構、礫・石組みを伴う遺構については炉跡と判断した。炉跡では検出時に製塩土器は出土していないが、遺跡の立地や過去の調査記録から製塩にかかわる遺構であるとみられる。

遺物：古墳時代後期の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、製塩土器、骨角製品、鉄製品、動物遺存体（貝類）などが出土している。その大半は2層からの出土で、複数の時代の遺物が混在している状況である。古墳時代の土師器は、底部穿孔甕（第12図3）、二重口縁壺（第11図13）、高坏の脚部などが出土しており、奈良・平安時代の遺物は土師器の坏・甕・甗・高坏、須恵器の坏・甕、製塩土器、輪の羽口、土錘、卜骨や弭などの骨角製品、長頸鐵などが出土している。第13図21は愛知県の知多半島や渥美半島などで出土する先尖りの棒状脚を有する製塩土器と考えられる。表浜貝塚においても同様の棒状脚と思われる破片が出土している。動物遺存体について、貝類はマガキ、ハマグリ、アサリ、サルボウガイ、クボガイ、ツメタガイ、レイシガイ、ユキノカサガイ等が出土している。

25年度（4次調査）

遺構：19トレンチで焼土面（SX38）、23トレンチで小規模な貝層（写真図版5-③）、25トレンチで破碎された貝類や土器片、比熱した凝灰岩を含む遺物包含層（6層）を検出した（写真図版5-⑥・⑧）。焼土面はトレンチ南東端の壁際の地山直上で検出した。貝層はトレンチ南端の壁際で検出され、厚さは10cm程度である。25トレンチの遺物包含層は最大30cm程の厚さがあり、灰白色火山灰が面的に広がる層（7層）を覆うように堆積していたことから、火山灰降下以降のものと考えられる。

長須賀遺跡

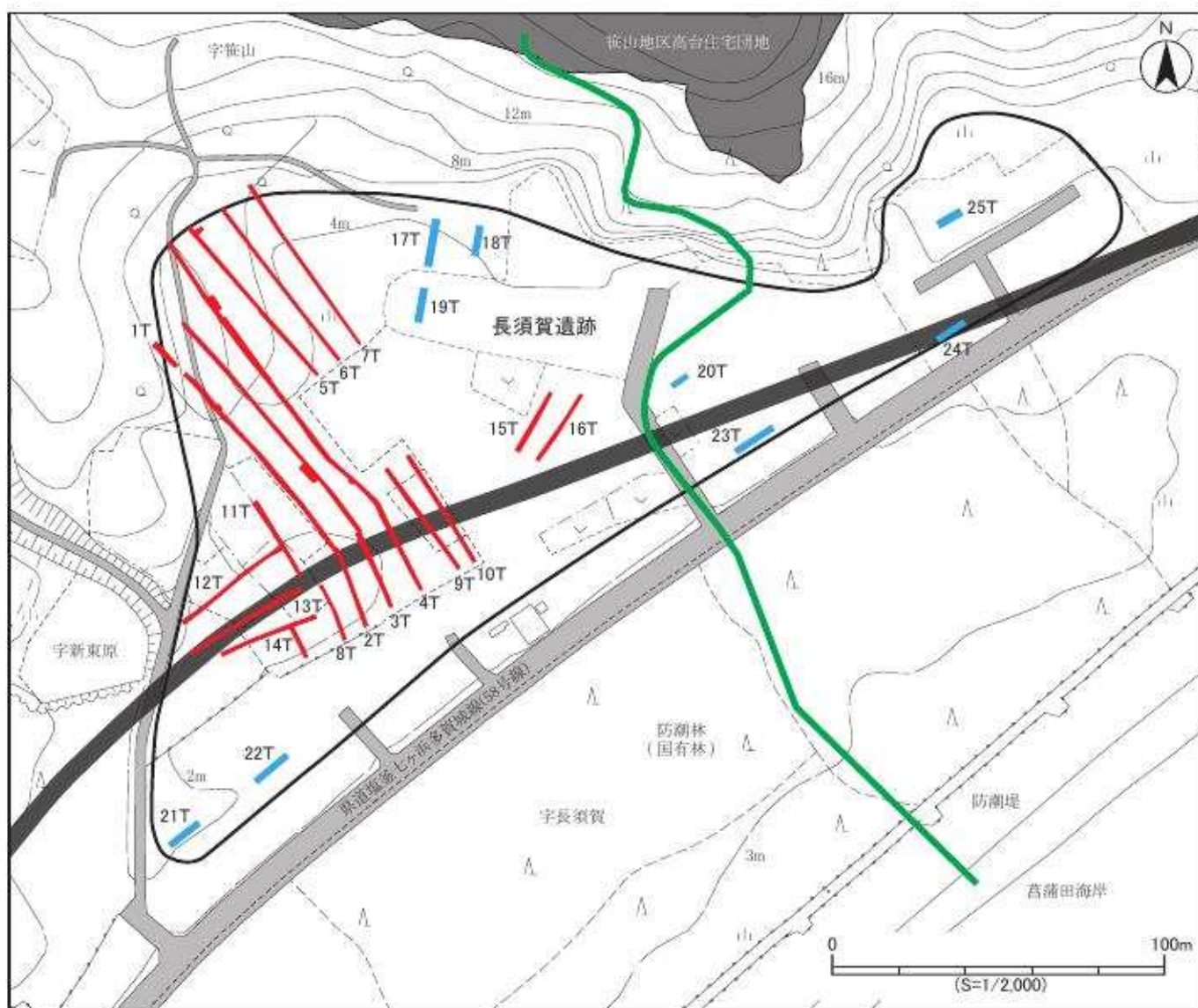
所在地		時代	
七ヶ浜町花洲浜字長須賀		古墳後期～平安	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20016	あり	貝塚・製塩	丘陵麓
出土品		土師器・須恵器・製塩土器・骨角器ほか	



第5図 七ヶ浜町内の古代製塩遺跡

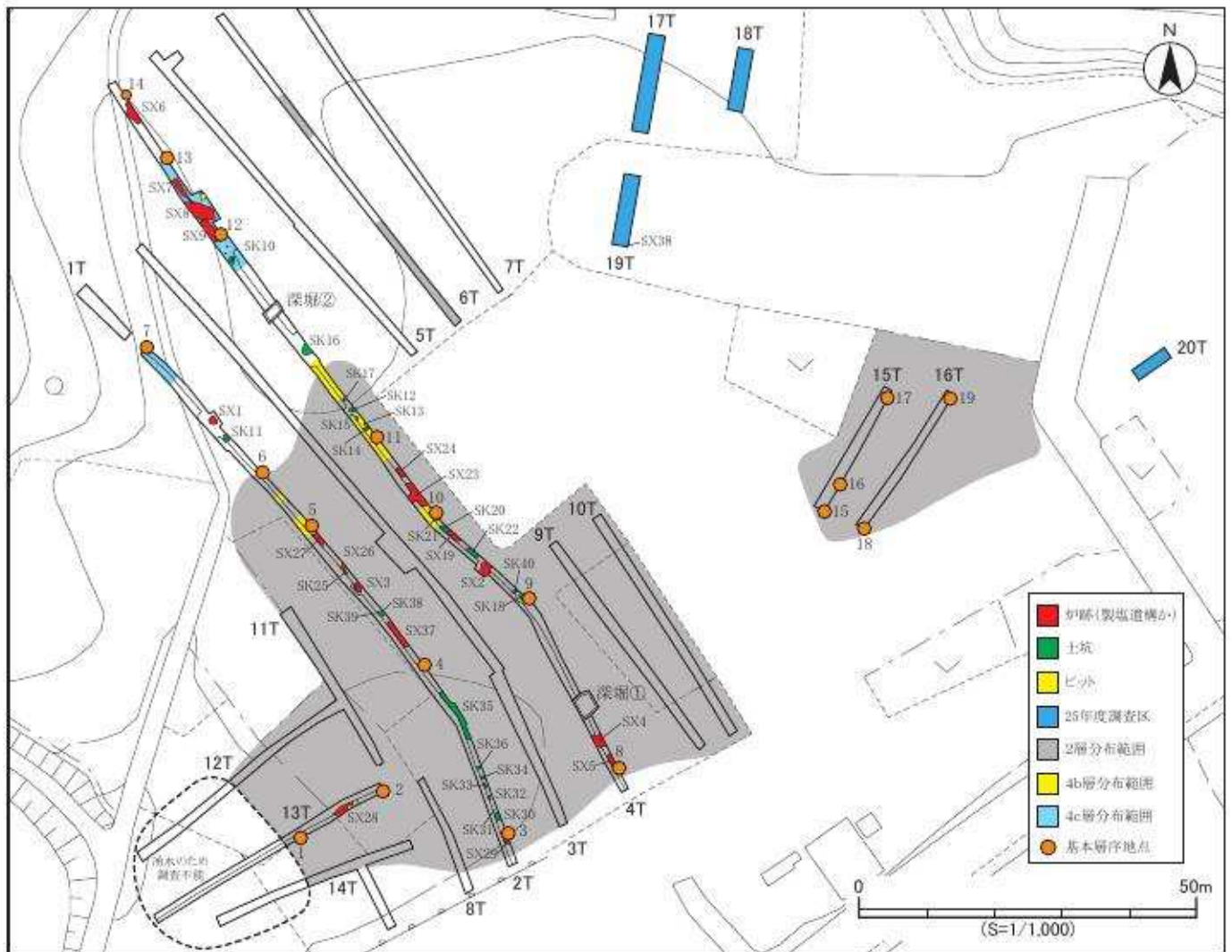


第6図 長須賀遺跡の位置と周辺の遺跡

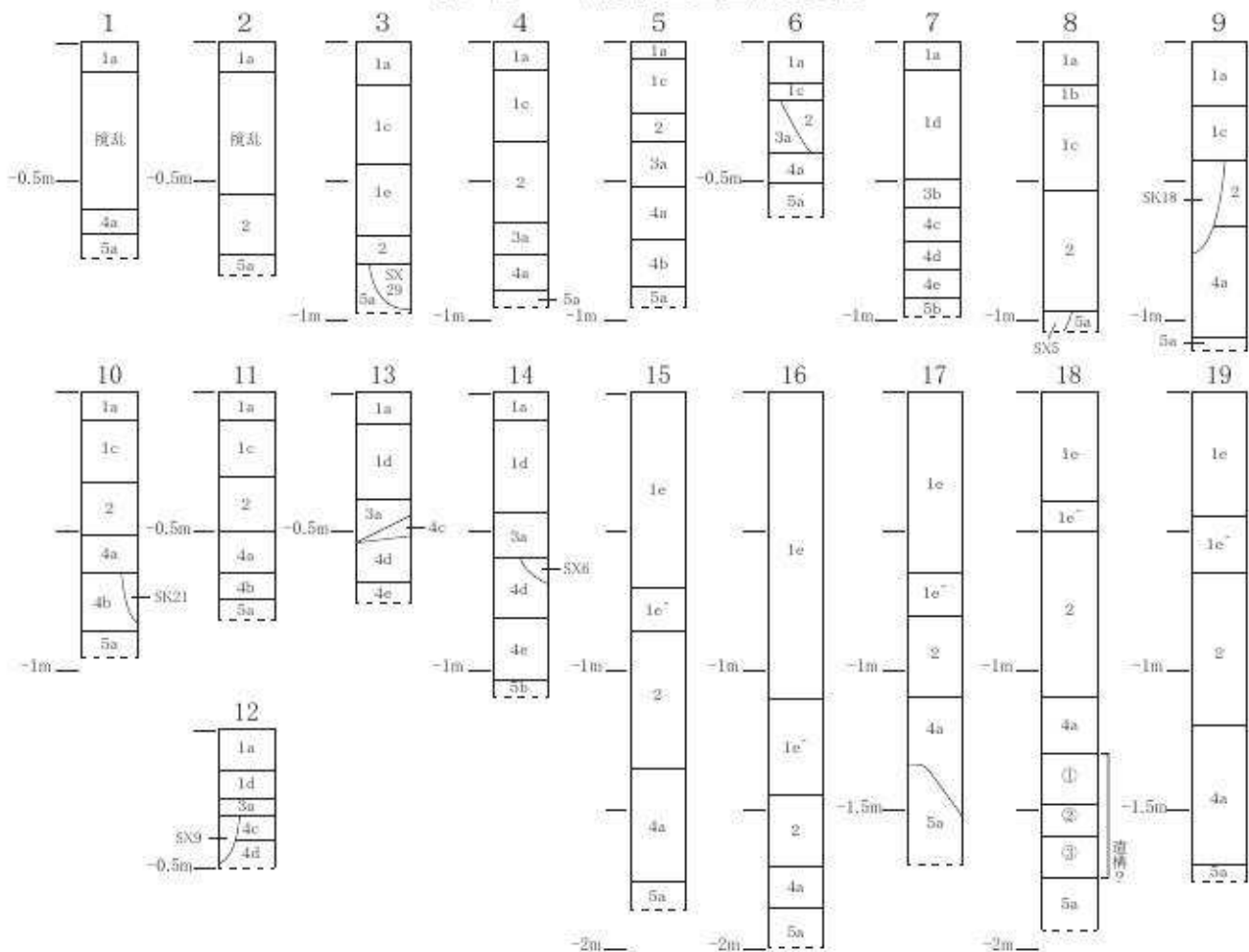


■: 24年度調査 □: 25年度調査 ■: 当初の県道移設ルート 〓: 雨水排水路ルート

第7図 トレンチ配置図



第8図 24年度調査区遺構配置図



第9図 24年度調査区基本層序

1層 表土

1a層: 現表土 1b層: 東日本大震災の津波層

1c層: 砂～砂質シルトで調査区南側に分布する

1d層: シルト～粘土質シルトで調査区北側に分布する

1e層: 住宅建設に伴う盛土

2層 平安時代の土器や破砕された貝類を含む黒褐色砂質シルトの整地層。調査区南・北側の窪地に分布している。近世または近代の層か

3a層 製塩土器とみられる土器小片を含む

3b層 貝類や土器の小片を含む黒褐色～黒褐色の砂質シルト。調査区南側に部分的に残存。中世以降か

4a層 破砕された貝類や土器小片を含む暗褐色砂質シルトで、調査区南側に分布。土坑、ピットが掘り込まれているが時期は不明

4b層 均質なぶい黄褐色細砂で、調査区中央部の一部に分布

4c層 土器小片や小礫を含む黒褐色シルトで、北側の一部に分布

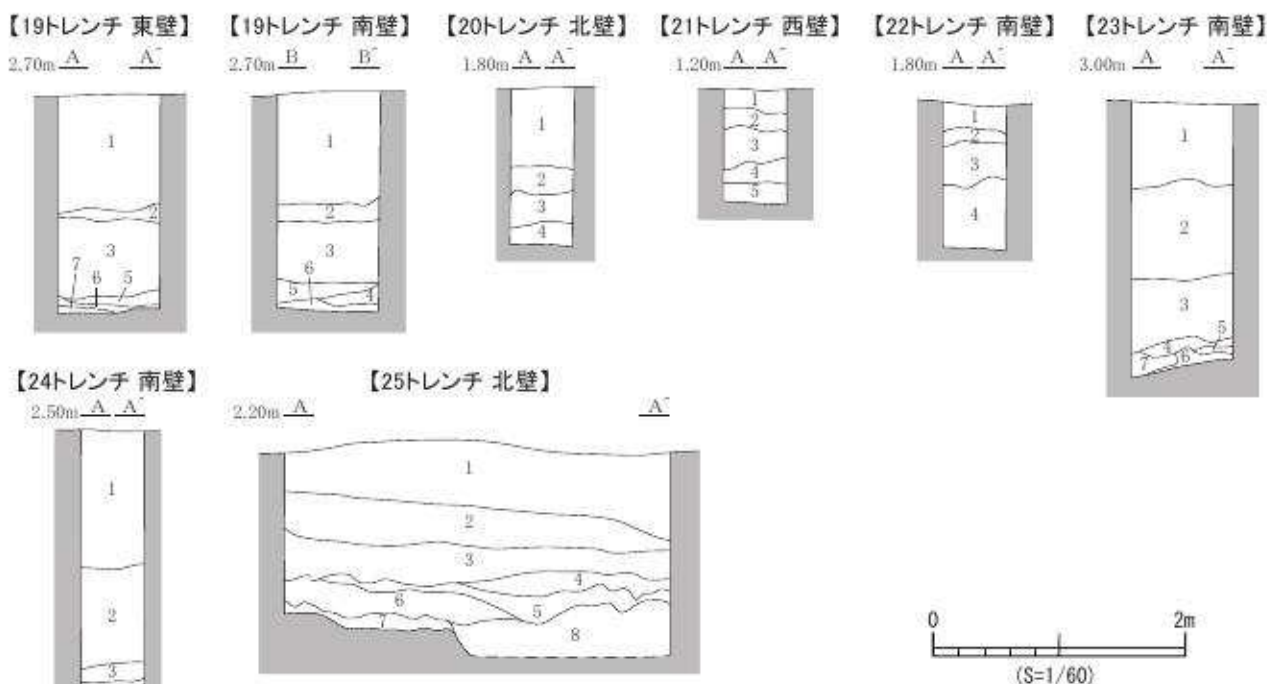
4d層 黒色砂質シルトで、調査区北側に分布。調査区北側の遺構(SX6～9、SK10)の確認面

4e層 暗褐色砂質シルトで、4d～5b層への漸移層

5層 奈良・平安時代の地山土

5a層: ぶい黄褐色粒砂で、調査区南側に分布。調査区南側の遺構確認面

5b層: ぶい黄褐色～暗褐色粒砂で、調査区北側に分布



第10図 25年度調査区トレンチ断面図

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	シルト	オリーブ褐色 2.5YR4/3	現表土 大型の礫・ゴミなどを含む(面積割合15～20%)
2	土層	砂質シルト	黒褐色 10YR2/2	旧表土 破砕された貝殻・土器片を含む(面積割合5～7%)
3	土層	砂質シルト	黒褐色 10YR2/2	破砕された貝殻・土器片・凝灰岩片を含む(面積割合20～25%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破砕された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合7～10%)
5	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	SX38付近を覆う層 破砕された貝殻を含む(面積割合3%)
6	土層	粘質シルト	暗褐色 7.5YR3/3	SX38付近を覆う層 粘土や凝灰岩粒・焼土を含む(面積割合3%)
7	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5YR4/4	地山 破砕された貝殻粒を含む(面積割合15～20%)

第2表 19トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	シルト	オリーブ褐色 2.5YR4/4	現表土 礫を含む
2	土層	砂	黒褐色 10YR2/3	旧表土 土器粒を含む
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	土器片を含む(面積割合1～3%)
4	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	

第3表 20トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	砂	暗オリーブ 5Y4/4	現表土 礫・根を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	東日本大震災の津波による堆積土 縞状に複数の層が入る
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	旧表土 破砕された貝・炭化物・根を含む(面積割合1～3%)
4	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	
5	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	地山 破砕された貝殻を含む(面積割合40～50%)

第4表 21トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	シルト	オリーブ 5Y5/4	表土 砂利・根を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	東日本大震災の津波による堆積土 縞状に複数の層が入る 小礫を含む
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	土器片・礫を含む(面積割合3~5%) 4層との間に火山灰を含む
4	砂層	砂	にぶい黄褐色 10YR4/3	地山 破碎された貝を含む

第5表 22トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	土層	砂~粘土	暗オリーブ褐色 5Y4/4	現表土
			黒褐色 2.5Y3/2	宅地造成の際の盛土 凝灰岩礫を含む(面積割合7~10%)
2	土層	粘性シルト~粘土	オリーブ褐色 2.5Y4/3	旧表土 根・凝灰岩粒・凝灰岩礫を含む(面積割合10~15%)
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	土器片粒を少量含む(面積割合1%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒を少量含む(面積割合1%)
5	混土貝層	砂	黒褐色 2.5Y3/2	二枚貝(カキ主体)を含む(面積割合30~40%)
6	砂層	砂	オリーブ黒 5Y3/2	地山
7	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	

第6表 23トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	砂	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	表土 宅地造成の際の盛土 大形の礫・根を含む(面積割合30~40%)
2	粘土層	粘土	明褐色 7.5YR5/6	直径50cm以上の大型の礫(凝灰岩)を含む(面積割合25~30%)
3	粘土層	粘性シルト~粘土	オリーブ黒 5Y2/2	田んぼの耕作面 旧表土下層に7.5YR3/4暗褐色の鉄分の沈殿がある
4	粘土層	粘性シルト~粘土	黒褐色 10YR2/3	被熱した凝灰岩粒を少量含む(面積割合1~3%)

第7表 24トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	砂質シルト~砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	現表土 大形の礫を含む(面積割合25~40%)
2	盛土	砂質シルト~砂	黒褐色 2.5Y3/2	砂利を多く含む(面積割合30~40%)
3	盛土	粘性シルト	オリーブ褐色 2.5Y4/6	凝灰岩礫を含む(面積割合20~25%)
4	土層	砂質シルト	黒褐色 10YR2/3	盛土以前の旧表土 破碎された土器片粒と凝灰岩粒を含む(面積割合5~7%)
5	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された土器片粒を含む(面積割合3~5%)
6	遺物包含層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻(イガイ)・土器片を含む 被熱した凝灰岩礫を含む(面積割合30~40%)
7	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	地山 10YR5/3にぶい黄褐色の火山灰を含む
8	土層	砂~砂質シルト	黒色 10YR2/1	7層の落ち込みを埋めるように堆積している 破碎された土器片粒を含む(面積割合3~5%)

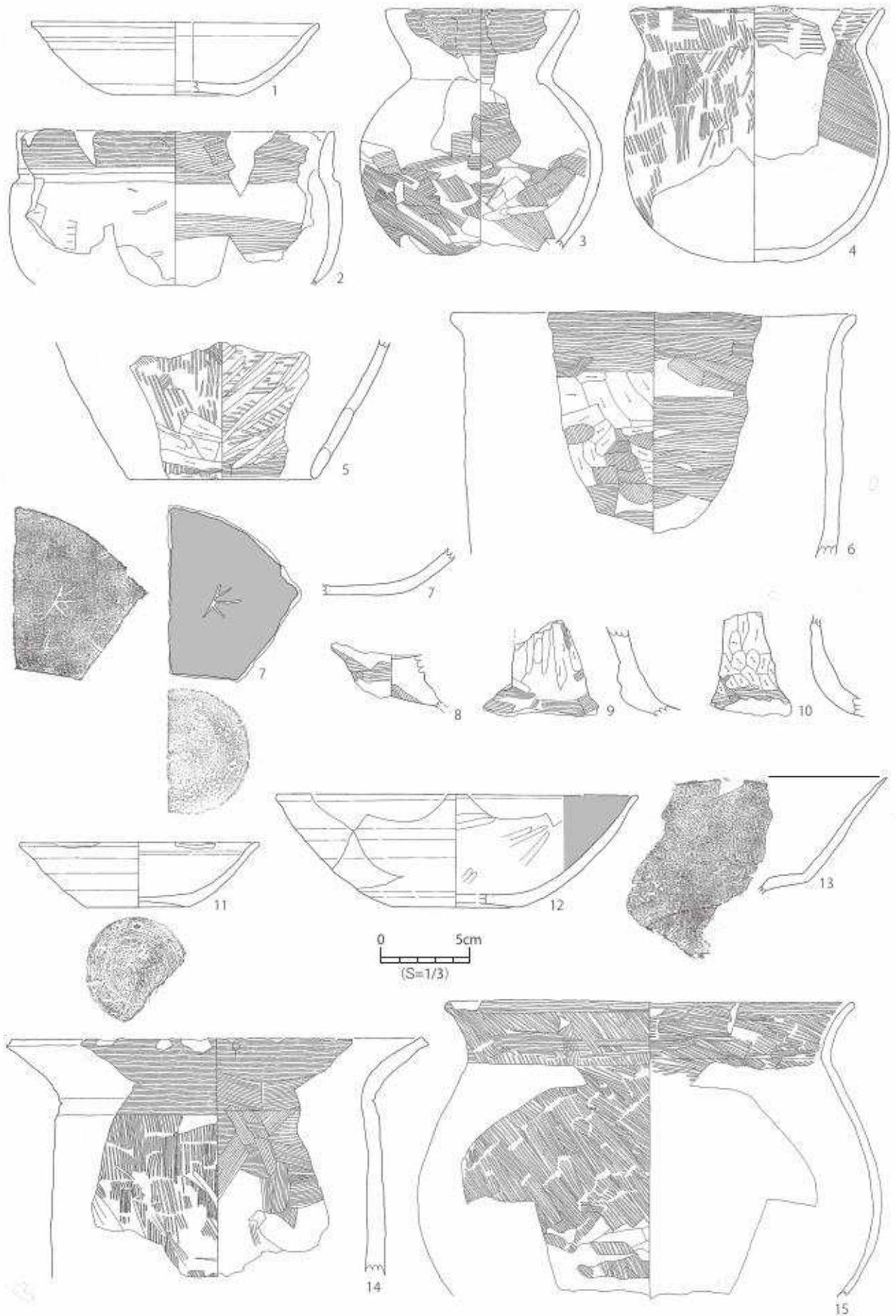
第8表 25トレンチ土層観察表

遺物：奈良・平安時代の土師器片、須恵器片、鉄製品などが出土した。

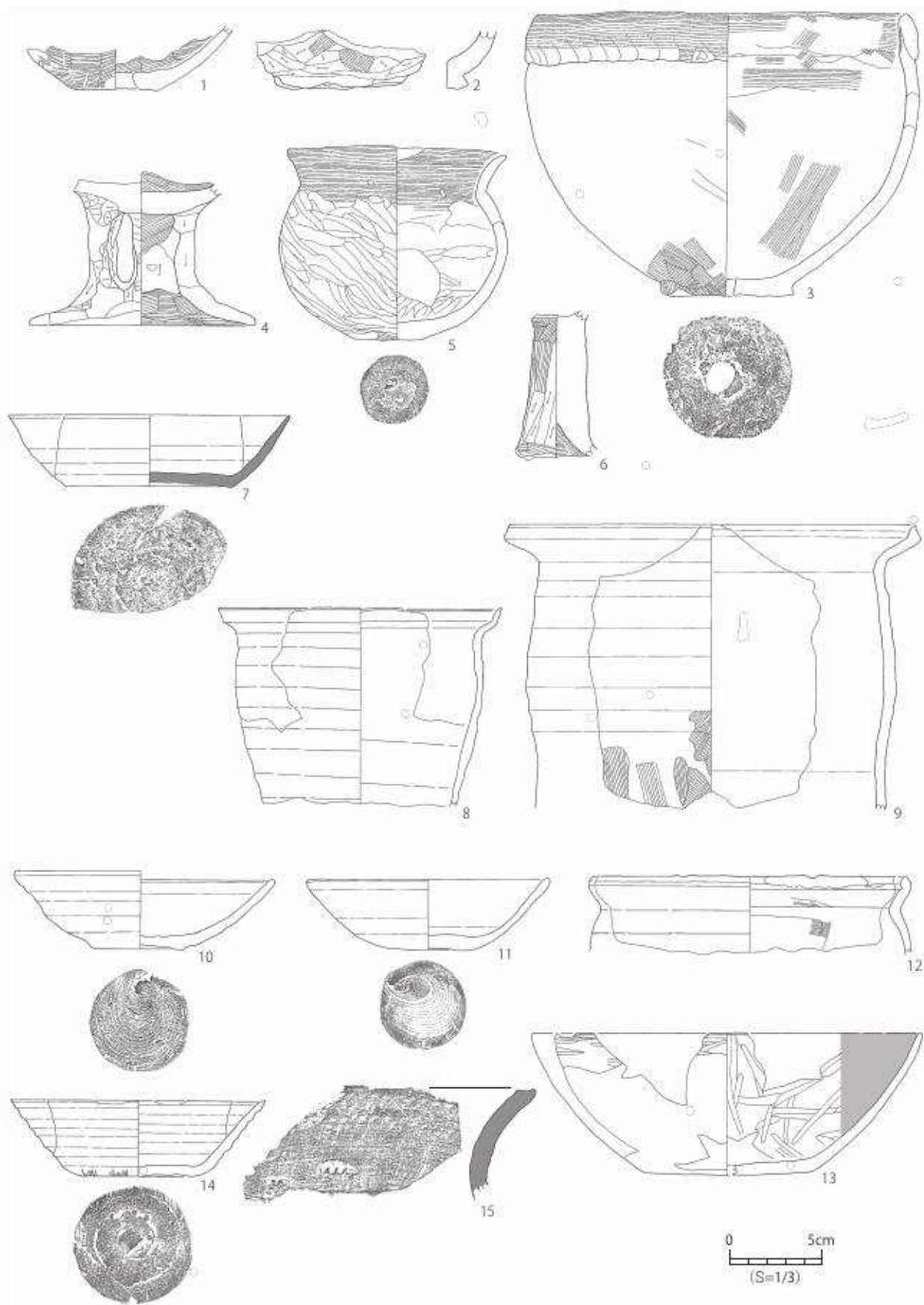
(5) まとめ

今回の調査により、24年度調査区に古墳時代後期~平安時代の炉跡や土坑、遺物包含層が残存することが確認された。また、当初より北東側に遺跡の範囲が広がること、住宅等の建築時に遺構面まで一部削平された可能性もあるが、県道沿いは遺構・遺物が希薄であることが明らかになった。

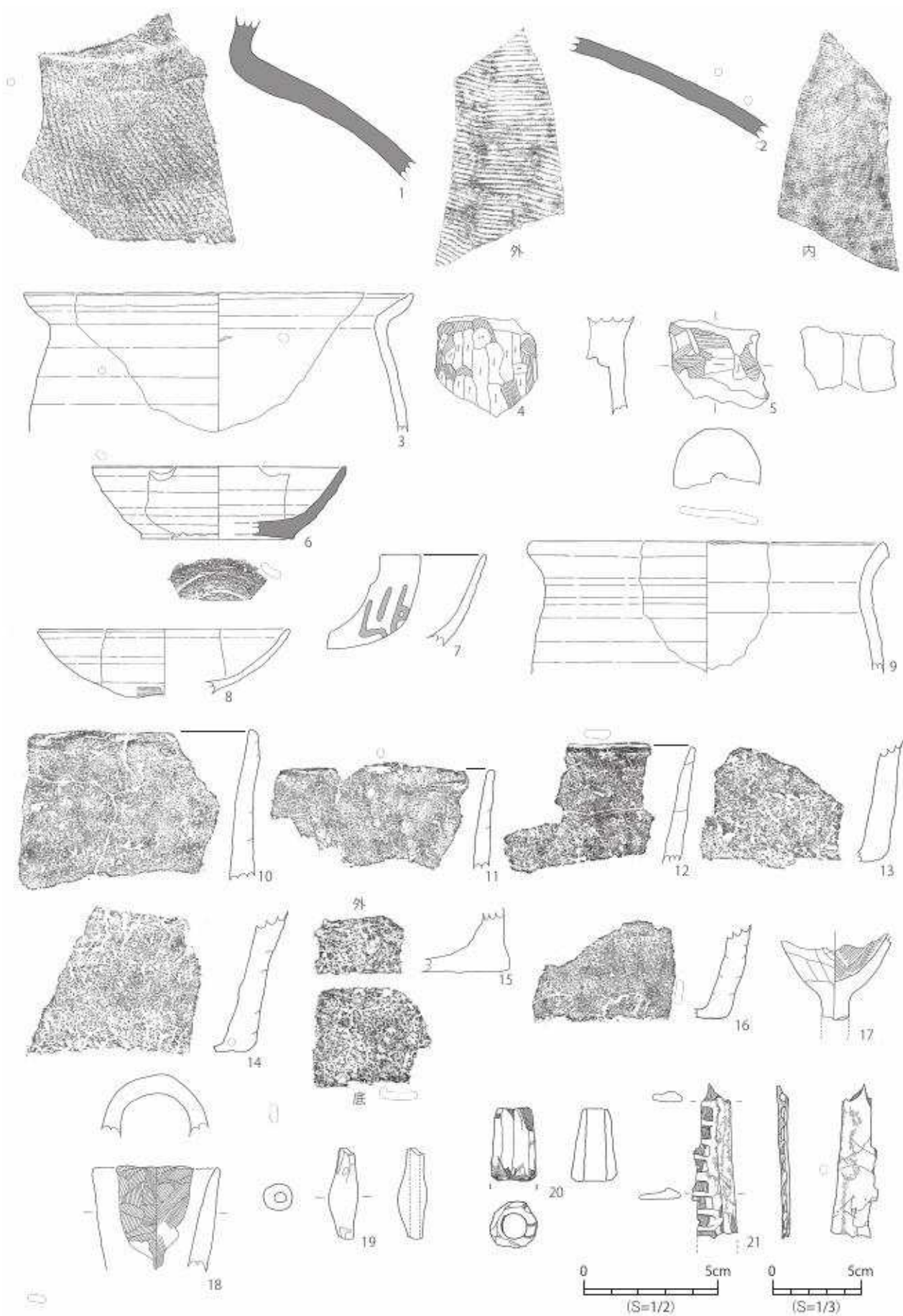
県道については、当初の計画では現ルートを北西側の内陸部に移設し、4m程の盛土による堤防機能を備えた高規格道路とするものであったが、その計画が見直され、現ルートでの嵩上げ、拡幅の計画となったことから、この事業による遺跡への影響はなくなった。また、雨水排水路整備については、確認調査後に関係機関と再度協議を行い、排水路ルートの掘削の際に工事立会いを行った。造成発生土仮置き場については掘削を伴わないことから計画通りに整備され、現在は域外へ発生土の搬出が行われており、現況に復旧される予定である。今後、被災住宅地(高台移転元地)の整備が予定されており、計画が具体化した時点で関係機関と協議を行い、さらなる調査の必要性があれば順次対応していく予定である。



第11図 長須賀遺跡出土土器 (1)



第12図 長須賀遺跡出土土器 (2)



第13図 長須賀遺跡出土土器 (3)・土製品・骨角製品

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録 番号	写真 図版	縮尺
11-1	2トレンチ	2層	土師器 坏	外面：ロクロナデ→ミガキ、炭化物付着 内面：ロクロナデ→ミガキ 底面：回転系切→ケズリ	(16.0)	4.0	(7.2)	長2T-5	25-1	1/3
11-2	2トレンチ	表採	土師器 甕	外面：ヨコナデ、ケズリ、剥離、沈線 内面：ヨコナデ、ヘラナデ	(17.6)	(8.5)	—	長2T-6	—	1/3
11-3	2トレンチ	4層	土師器 甕	外面：ヨコナデ、ハケメ→ナデ 内面：ヨコナデ、ヘラナデ、ケズリ	(10.6)	(13.7)	—	長2T-2	25-2	1/3
11-4	2トレンチ	4層	土師器 甕	外面：口縁ヨコナデ→ハケメ→ミガキ、ハケメ→ミガキ、ケズリ 内面：口縁ヨコナデ→ハケメ→ミガキ、ヘラナデ 底面：ケズリ	14.2	14.3	3.2	長2T-1	25-3	1/3
11-5	2トレンチ	2層	土師器 甕	外面：ハケメ→ヘラナデ、ケズリ 内面：ハケメ→ナデ→ヘラミガキ	—	(7.6)	(10.3)	長2T-8	—	1/3
11-6	2トレンチ	2層	土師器 甕	外面：ヨコナデ→ヘラナデ、ケズリ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ	(20.0)	(10.9)	—	長2T-3	—	1/3
11-7	2トレンチ	2層	土師器 坏	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→黒色処理 刻書 底面：回転系切→ナデ	—	—	—	長2T-12	—	1/3
11-8	2トレンチ	2層	土師器 高坏	外面：ナデ、ケズリ 内面：ミガキ→黒色処理、底面：ヘラナデ、黒色処理	—	—	—	長2T-10	—	1/3
11-9	2トレンチ	2層	土師器 高坏	外面：ナデ、ケズリ、ミガキ、透かし 内面：ケズリ→ミガキ	—	—	—	長2T-7	—	1/3
11-10	2トレンチ	2層	土師器 高坏	外面：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	—	(5.9)	—	長2T-9	—	1/3
11-11	3トレンチ	表採	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	(13.3)	3.5	(5.8)	長3T-16	—	1/3
11-12	3トレンチ	表採	土師器 坏	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底面：回転系切→ナデ	(20.0)	6.3	(7.0)	長3T-15	—	1/3
11-13	3トレンチ	2層	土師器 壺	外面：口縁ヨコナデ、ハケメ→ミガキ 内面：ヨコナデ→ミガキ、赤色顔料塗布	—	—	—	長3T-19	—	1/3
11-14	3トレンチ	3層	土師器 甕	外面：ハケメ→ヨコナデ、ハケメ→ミガキ 内面：ヨコナデ→ヘラナデ、ヨコナデ、ナデ	(22.6)	(13.2)	—	長3T-13	—	1/3
11-15	3トレンチ	2層	土師器 甕	外面：口縁ハケメ→ヨコナデ、ハケメ、ハケメ→ミガキ 内面：口縁ハケメ→ヨコナデ、ナデ	(22.4)	(16.5)	—	長3T-14	—	1/3

第9表 長須賀遺跡出土土器観察表 (1)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録 番号	写真 図版	縮尺
12-1	3トレンチ	3層	土師器 甕	外面：ハケメ 内面：ヘラナデ 底面：ハケメ→ヘラナデ、焼成前穿孔	—	(3.4)	4.4	長3T-17	25-4	1/3
12-2	4トレンチ SX23	埋土	土師器 甕	外面：ケズリ、ヘラナデ 内面：ケズリ、ナデ	—	—	—	長4T-26	—	1/3
12-3	4トレンチ SK16	3層	土師器 甕	外面：口縁指圧痕→ヨコナデ、ヘラナデ、ナデ、ミガキ 内面：ヘラナデ、ヨコナデ、ミガキ 底面：焼成前穿孔 (内→外への穿孔)	19.6	15.0	7.0	長4T-21	25-5	1/3
12-4	4トレンチ SX23	埋土	土師器 高杯	脚部外面：ケズリ、ナデ、ミガキ 脚部内面：ケズリ、ナデ、ヘラナデ、ヨコナデ、ミガキ 杯部：ヘラミガキ→黒色処理 底面：ロクロナデ、ナデ	—	—	12.0	長4T-31	25-6	1/3
12-5	4トレンチ	1層	土師器 壺	外面：口縁ヨコナデ、ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ、底部付近ヘラナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ、ミガキ	11.6	10.3	3.6	長4T-20	25-7	1/3
12-6	4トレンチ	2層	土師器 高坏	外面：ナデ、ケズリ 内面：ヘラナデ	—	(8.0)	—	長4T-28	—	1/3
12-7	4トレンチ	2層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：静止系切→ヘラナデ	(14.8)	3.8	(8.9)	長4T-24	—	1/3
12-8	4トレンチ SX2	炉面直上	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(15.0)	(10.3)	—	長4T-23	—	1/3
12-9	4トレンチ SX2	炉面直上	土師器 甕	外面：ロクロナデ→ヘラナデ、炭化物付着 内面：ロクロナデ	(21.4)	(15.1)	—	長4T-22	—	1/3
12-10	10トレンチ	2層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	13.6	4.2	4.7	長10T-39	—	1/3
12-11	10トレンチ	2層	土師器 坏	外面：ロクロナデ、墨書 内面：ロクロナデ 底面：回転系切	12.8	3.8	4.5	長10T-38	25-8	1/3
12-12	4トレンチ	2層	土師器 甕	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ、ヘラナデ、指ナデ	(16.4)	(4.0)	—	長4T-27	—	1/3
12-13	4トレンチ	2層	土師器 鉢	外面：ナデ、ミガキ、剥離 内面：ナデ→ヘラミガキ→黒色処理	(20.6)	7.5	(8.8)	長4T-25	—	1/3
12-14	12トレンチ	表採	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：静止系切→ナデ	(13.5)	4.0	6.2	長12T-40	25-9	1/3
12-15	12トレンチ	表採	須恵器 甕	外面：ロクロナデ→工具痕 内面：ロクロナデ	—	—	—	長12T-42	—	1/3

第10表 長須賀遺跡出土土器観察表 (2)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録 番号	写真 図版	縮尺
13-1	12トレンチ	表探	須恵器 甕	外面：タタキ目、ナデ 内面：アテ具痕、ナデ	—	—	—	長12T-41	—	1/3
13-2	12トレンチ	表探	須恵器 甕	外面：平行タタキ目 内面：平行アテ具痕	—	—	—	長12T-43	—	1/3
13-3	13トレンチ	表探	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(21.4)	(7.6)	—	長13T-44	—	1/3
13-4	19トレンチ	3層	土師器 高杯	外面：ケズリ、ナデ、ミガキ 内面：ケズリ	—	—	—	長19T-48	—	1/3
13-5	19トレンチ	3層	土師器 高台	外面：ケズリ、ナデ 内面：ケズリ	—	(4.8)	—	長19T-47	—	1/3
13-6	19トレンチ	4層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	(14.0)	4.0	(8.5)	長19T-45	—	1/3
13-7	19トレンチ	4層	土師器 坏	外面：ロクロナデ、ナデ、墨書 内面：ロクロナ デ→ミガキ→黒色処理	—	—	—	長19T-46	—	1/3
13-8	23トレンチ	表探	土師器 坏	外面：ロクロナデ、ハケメ 内面：ロクロナデ	(14.0)	(3.8)	—	長23T-49	—	1/3
13-9	25トレンチ	3層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(19.4)	(7.2)	—	長25T-50	—	1/3
13-10	4トレンチ	表探	製埴土器	平縁 外面：ナデ、輪積痕 内面：ヘラナデ、 輪積痕	—	—	—	長4T-32	25-10	1/3
13-11	4トレンチ	表探	製埴土器	平縁、口唇部ナデ 外面：ナデ、指オサエ、輪 積痕 内面：ヘラナデ	—	—	—	長4T-36	—	1/3
13-12	4トレンチ	2層	製埴土器	口唇部ナデ 外面：ナデ、輪積痕 内面：ヘラナデ、 剥離	—	—	—	長4T-37	—	1/3
13-13	4トレンチ	表探	製埴土器	外面：ナデ、輪積痕 内面：ヘラナデ、輪積痕、 剥離	—	—	—	長4T-33	—	1/3
13-14	4トレンチ	表探	製埴土器	外面：ナデ、輪積痕 内面：ヘラナデ、剥離	—	—	—	長4T-35	25-11	1/3
13-15	25トレンチ	3層	製埴土器	外面：指オサエ 内面：剥離	—	—	—	長25T-51	—	1/3
13-16	4トレンチ	表探	製埴土器	外面：ナデ、輪積痕 内面：ヘラナデ	—	—	—	長4T-34	—	1/3
13-17	4トレンチ	表探	製埴土器	外面：ケズリ 内面：ヘラナデ	—	(4.9)	—	長4T-29	25-12	1/3

番号	トレンチ 遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	最大厚 (cm)	状 況	特徴等	登録番号	写真 図版	縮尺
13-18	2トレンチ	2層	羽口	(5.7)	—	—	一部欠損	内外面：ナデ 残存最大径 7.0cm	長2T-4	—	1/3
13-19	4トレンチ	4層	土鏝	(5.0)	1.5	0.6	一部欠損	ケズリ→ミガキ	長4T-30	—	1/3

番号	トレンチ 遺構	層位	分類	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	状況	特徴等	登録番号	写真 図版	縮尺
13-20	3トレンチ	表探	頭	鹿角	2.7	径1.7	—	5.55	完形	内径0.9cm	長3T-52	25-13	1/2
13-21	2トレンチ	2層	ト骨	ウシ肋骨	(5.7)	(1.6)	(0.5)	(2.60)	欠損	縦、長方形、焼灼痕 溝幅0.4~0.5cm	長2T-53	25-14	1/2

第11表 長須賀遺跡出土土器(3)・土製品・骨角製品観察表

3 高山横穴墓群（第14～18図、写真図版6・26）

（1）遺跡の概要

高山横穴墓群は七ヶ浜町花測浜字浜沼地内に所在する奈良・平安時代の横穴墓である（第14図）。表浜海岸に面する丘陵崖部に位置し、丘陵上は高山外国人別荘地となっている。ほぼ垂直に立ち土がる崖面に露出するシルト岩（大塚層Ot1）を掘り込んで造営された横穴墓で、丘陵東斜面の地上から約3～6mに11基程開口しているのが確認されている。その多くは波浪や風雨による風化が著しく、横穴墓の判断が難しいが、本来はさらに多くの横穴墓が造営されていたと考えられる。これまで詳細な調査は行われていないが、町内の砂山横穴墓群、樹形囲横穴墓群では奈良・平安時代の土師器や須恵器、鉄製品、ガラス玉、湖西産須恵器などが出土していることから、本横穴墓も同時期に造営と考えられている。近隣には、表浜海岸背後の浜堤上に古墳時代後期～平安時代の貝塚・製塩遺跡と考えられる表浜貝塚が所在し、本横穴墓群との関連が深い遺跡である。尚、表浜貝塚では津波防災緑地（都市公園）整備事業に伴う確認調査を平成25～27年度に実施しており、古墳後期～平安時代の貝塚や炉跡、土坑などを検出し、当該期の遺物が出土している。

（2）調査要項

遺跡名 高山横穴墓群（宮城県遺跡地名表登録番号 20012）
調査地 七ヶ浜町花測浜字浜沼地内
調査原因 防潮堤改修
調査協力 宮城県教育委員会、宮城県仙台土木事務所河川課河川砂防第二班
調査担当 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）、古田和誠・山中信宏（宮城県教育委員会文化財保護課）
三好秀樹（宮城県多賀城跡調査研究所）、遠藤 武（愛媛県派遣）
調査期間 平成24（2012）年6月27日～29日、7月29～8月3日
（8月2日・3日に宮城県教育庁文化財保護課協力）
対象面積 約100㎡ 調査面積 約100㎡

（3）調査の概要と成果

計画は既存防潮堤のルートを踏襲し、堤防高を現況より約4.2mの嵩上げ（T.P.+6.8m）を行う総延長約268.5mの緩傾斜式堤防を整備するものである。この計画では防潮堤の西端が横穴墓の所在する崖面にかかることが判明したため、関係機関と協議を行った結果、当該箇所での横穴墓の有無を確認する必要があるとの判断から調査を行うこととなった。調査地点の崖面は樹木や土砂で覆われており（写真図版6-①）、重機を使用してこれらを除去したところ、新たに3基の横穴墓のプランを検出した（第15・16図）。これらの横穴墓は便宜的に東側から1・2・3号墓と呼称することとした。1号墓の東側で、崖面が北側に屈曲しているが、この面では横穴墓が確認されなかった。土砂除去後に、残存状況確認のために羨道の精査を行ったが、玄室内の調査は行わなかった。

3基ともに崖面の崩落により羨道の一部が失われており、1・2号墓は閉塞石の一部が残存していた（写真図版6-③・④）。2号墓は1・3号墓に比べて一回り大きく、50cm程高い位置に造営されており、羨道中央には排水溝が設けられていた。また、閉塞石付近から須恵器の壺（第18図5）と瓶（第18図6）が出土した。壺は褐色を呈する長頸壺で、口縁部を欠損している。瓶は肩部と体部下半に板状の把手が付く板状耳付瓶である。1号墓羨道ではロクロ調整を持つ土師器・須恵器坏などが出土している。3号墓では遺物は確認されなかった。

羨道の精査後に、写真撮影、垂直分布図（立面図）の作成を行った。垂直分布図の測量は電子平板を使用した。横穴墓が分布する斜面に50cm×50cmのメッシュを組み、メッシュごとに撮影した写真

を電子平板で測量した垂直分布図に合成し作成した。測量作業終了後、横穴墓保護のために羨道を土嚢で埋め戻し、調査を終了した。

(4) 考察 2号墓出土板状耳付瓶

板状耳付瓶(第18図6)は、2号墓羨道より須恵器の長頸壺と共に出土した完形資料である。肩部の双耳に直交する体部下半に耳が1つ付き、耳3点が三角点状になる三耳瓶である。耳部は端部を隅丸状に加工したかまぼこ状を呈しており、中央部に穿孔を持つ。孔に紐状の綱を通し、液体を運んだ容器と考えられる。

こうした板状耳付瓶は県内では類例がないが、東北地方では山形県酒田市泉森窯跡、岩手県宮古市山口館跡、福島県会津若松市大戸窯跡、秋田県横手市竹原窯跡などで出土している。泉森窯跡では全長8.7m、幅1.8mのSQ01窯跡から、縄目のタタキ痕を残す、ロクロ調整の長頸瓶3点が出土している。耳部は突起状の装飾を持ち、肩部の双耳に直交するように体部下半に耳が1つ付いている。共伴する土器から9世紀第1四半期に位置付けられている。山口館跡では、一辺約6mの隅丸方形の4号竪穴住居跡から非ロクロ成形の土師器坏・甕とともに、ロクロ調整痕を持つ短頸壺が1点出土している。耳部はすべて欠損しているが、剥落部分の痕跡から三耳壺と考えられる。共伴する土師器から8世紀前半に位置付けられている。これらの類例と2号墓出土の資料を比較すると、器種の違い、耳部の装飾の有無、体部の耳の取り付け位置の違いが見られる。編年的位置付けについては、福島県大戸窯跡(板状耳付瓶)では9世紀前半の南原19号窯、8世紀第3四半期の33号窯、8世紀末～9世紀初頭の上雨屋12号窯とされ、秋田県竹原窯跡SJ05窯跡(板状耳付甕)は8世紀第2四半期など、おおむね8世紀半ばから9世紀前半に位置付けられている。高山2号墓出土の瓶については、共伴する長頸壺が猿投窯産のIG-78号窯期以降(8世紀末～9世紀初頭)の製品と考えられていることから、同時期に位置付けられると考えられる。

(5) まとめ

今回の調査では新たに3基の横穴墓が検出され、1・2号墓は8世紀後半から9世紀前半の造営と考えられる。また、1号墓の東側には新たな横穴墓は確認されなかったことから、横穴墓群の北端を確認することができた。今回の成果を受けて再度関係機関と協議を行い、新たに発見された1～3号墓について、宮城県仙台土木事務所に対し防潮堤のルート変更などの保護措置を図るよう要請をした。これを受けて、防潮堤西端部付近については横穴墓が確認されなかった1号墓北側の斜面に堤防ルートを変更することとなった。

4 峯貝塚(隣接地)(第19・20図、写真図版7)

(1) 遺跡の概要

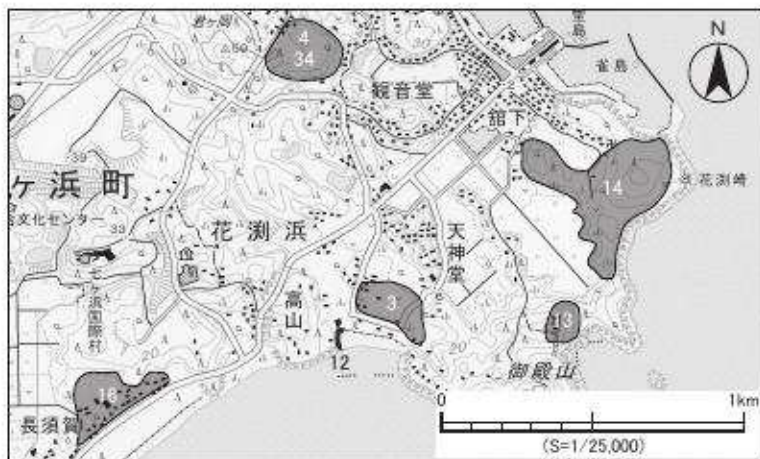
峯貝塚は七ヶ浜町代ヶ崎浜字峯地内に所在する縄文時代晩期を主体とする貝塚・製塩遺跡である(第19図)。現況は宅地、畑地である。これまで詳細な調査は行われていないが、丘陵先端部の麓の畑地などで縄文時代晩期中葉～後葉の土器や製塩土器、土師器・須恵器片が表採されている。峯貝塚南側の丘陵先端部には縄文時代後期後葉～晩期前葉の貝塚である沢上貝塚が所在する。

(2) 調査要項

遺跡名 峯^ノ貝^ノ塚(宮城県遺跡地名表登録番号 20028)

調査地 七ヶ浜町代ヶ崎浜字立花地内

調査原因 代ヶ崎浜地区災害公営住宅・高台住宅団地・地区避難所整備



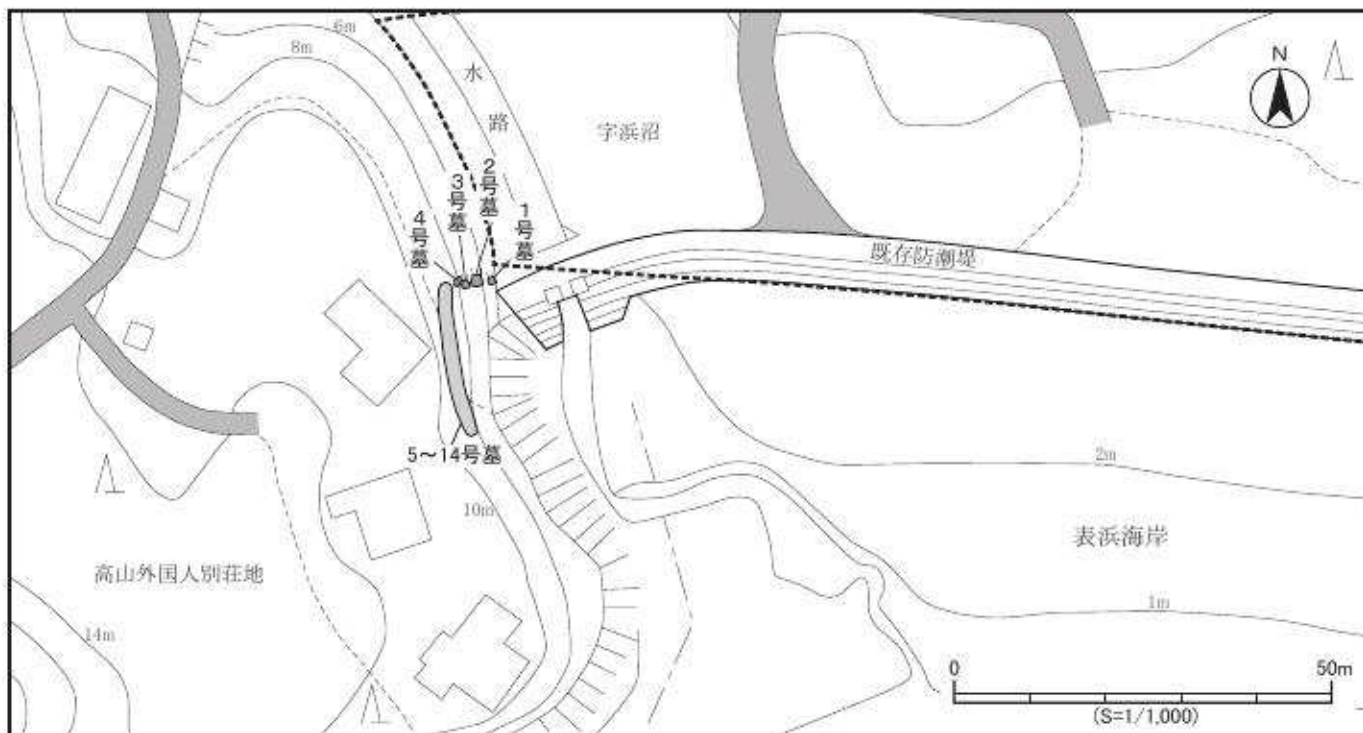
第14図 高山横穴墓群の位置と周辺の遺跡

高山横穴墓群

所在地		時代	
七ヶ浜町花測浜字浜沼		奈良・平安	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20012	なし	横穴墓	丘陵麓
出土品		土師器・須恵器	

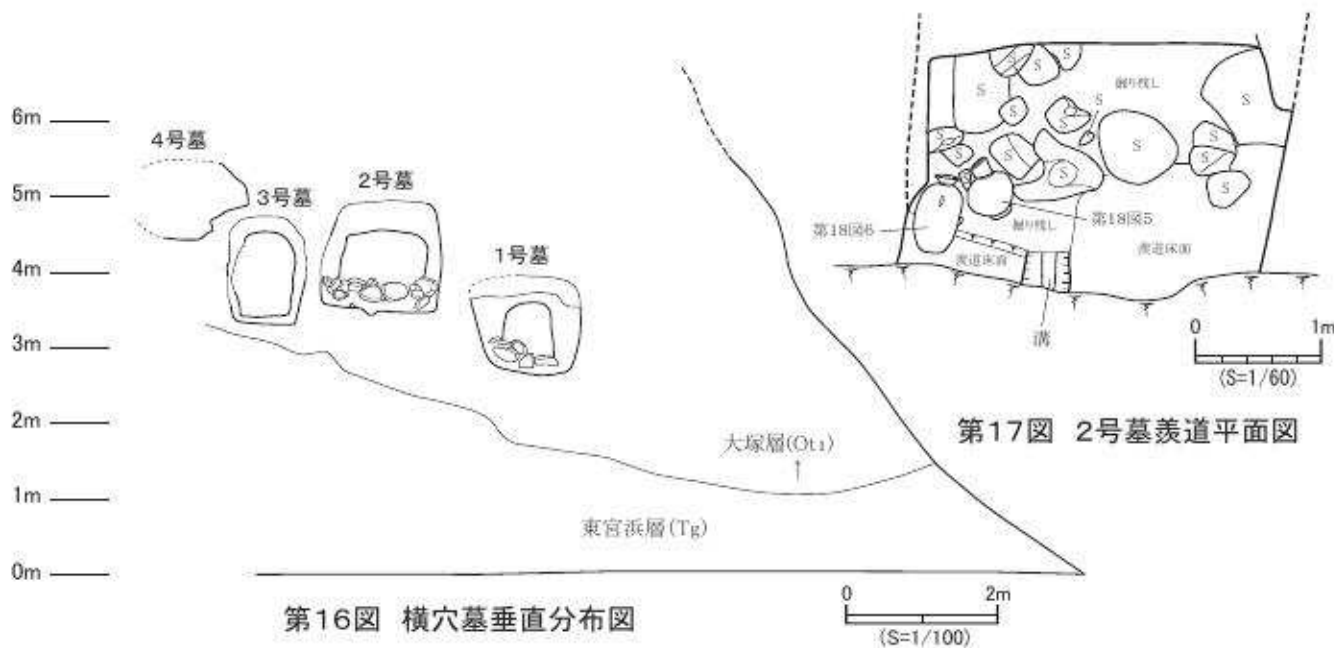
周辺の遺跡

- 3：表浜貝塚（古墳後期～平安）
- 4：君ヶ岡貝塚（縄文）
- 13：鼻節神社遺跡（縄文・古代）
- 14：花測城跡（中世）
- 16：長須賀遺跡（古墳後期～平安）
- 34：藤ヶ沢貝塚（縄文）



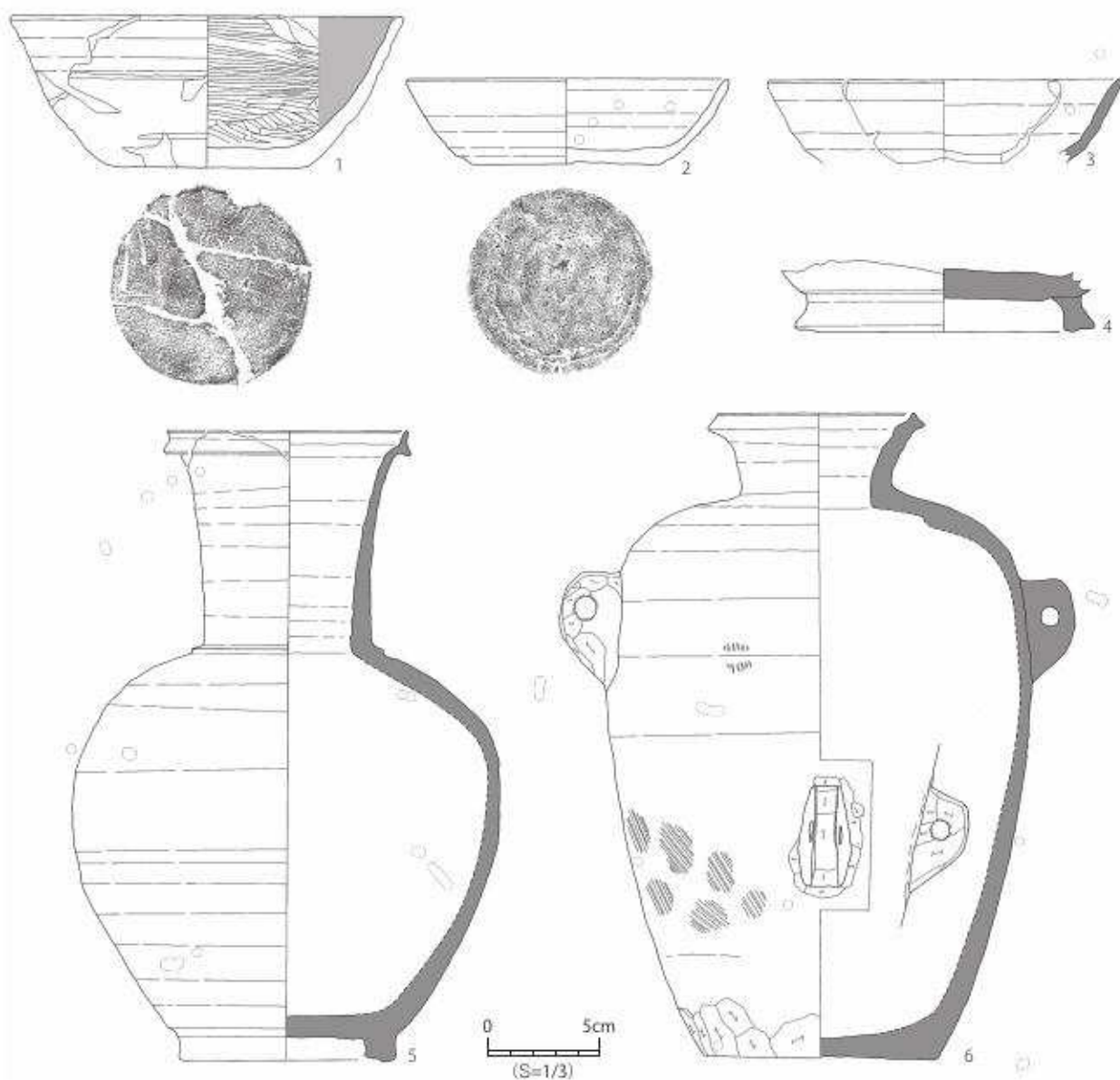
-----: 計画変更後の堤防範囲

第15図 遺構配置図



第16図 横穴墓垂直分布図

第17図 2号墓羨道平面図



番号	トレンチ遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真図版	縮尺
18-1	1号墓後道	—	土師器 坏	外面：ロクロナデ、ヘラミガキ 内面：ミガキ→黑色処理、格子状線刻 底面：ヘラ切り	—	6.6	8.5	高1号-1	26-1	1/3
18-2	1号墓後道	—	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底部：静止ヘラ切り→ヘラナデ	(14.1)	3.8	8.1	高1号-2	26-2	1/3
18-3	1号墓後道	—	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ	(15.4)	(3.6)	—	高1号-3	—	1/3
18-4	1号墓後道	—	須恵器 壺 高台	内外面：ロクロナデ	—	(3.1)	13.1	高1号-4	—	1/3
18-5	2号墓後道	—	須恵器 長頸壺	猿投窯産(IG-78号窯期) 外面：ロクロナデ、回転ケズリ 内面：ロクロナデ	(10.4)	27.5	9.5	高2号-1	26-3	1/3
18-6	2号墓後道	—	須恵器 板状耳付瓶	外面：ロクロナデ、タタキ、ケズリ 内面：ロクロナデ 底面：ヘラナデ 耳部：ケズリ	8.5	28.2	10.0	高2号-2	26-4	1/3

第18図 高山横穴墓群出土土器

調査担当 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）

調査期間 平成24（2012）年11月13日～11月22日 対象面積 17,485㎡ 調査面積 10㎡

（3）調査の概要と成果

代ヶ崎浜地区では既存集落に隣接する立花地区の丘陵上に、鉄筋コンクリート構造2階建ての災害公営住宅24戸、高台住宅団地14区画、地区避難所1棟を整備する防災集団移転促進事業が計画された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、計画地の南西側に峯貝塚が所在することから、峯貝塚との関わりや未発見の遺跡の有無の確認が必要であると判断し、確認調査を行った。事前の踏査により計画地の丘陵はかつて畑地として利用されており、北から延びる丘陵が大きく削平されていることが判明し、遺跡の存在の可能性は低いと考えられた。しかし、計画地は耕作放棄により藪地化しており、踏査のみでは地表の状況の把握が難しいことから、計画地中央部にトレンチ4本（1～4トレンチ）を設定し人力で掘削を行った（第20図）。すべてのトレンチで表土直下に地山を検出したことから、丘陵が削平されていることを改めて確認した。遺構・遺物は確認されなかった。掘削後に写真撮影、土層堆積状況の観察・記録を行った後に、人力で埋め戻しを行った。

（4）まとめ

今回の調査では、丘陵が大きく削平されており、遺構・遺物は確認されなかったことから、峯貝塚の範囲は計画地の丘陵に広がらないこと、また未確認の埋蔵文化財も所在しないことが明らかになった。以上のことから、計画地での工事は当初の計画通りに実施して問題がないと判断した。

5 二月田貝塚（隣接地）（第21・22図、写真図版8）

（1）遺跡の概要

二月田貝塚は七ヶ浜町吉田浜字二月田、新二月田に所在する縄文時代後期後葉～晩期末葉の貝塚・集落跡である（第21図）。国史跡大木田貝塚に次ぐ規模の集落跡と考えられ、七ヶ浜半島における縄文時代後・晩期の拠点的な集落である。弥生時代中期、平安時代の遺物も出土しているが、縄文時代以降の本貝塚の状況については不明な点が多い。遺跡は標高15～20mの丘陵先端部から低地にかけて立地し、現況は畑地、水田である。これまで数次にわたる調査が行われているが、昭和44・45（1969・70）年の塩釜女子高校社会部の調査（1・2次）では、アサリを主体とする貝層や晩期後葉（大洞A式）に属する製塩遺構や土壙墓などが検出され、縄文時代後期末～晩期初頭・後葉の遺物や製塩土器が出土した。また、1988（昭和63）年の町教育委員会による遺跡北西部の町道沿いの調査（A～Eトレンチ）では、アサリとカキを主体とする貝層や製塩遺構などを検出し、縄文時代後期から晩期の土器や製塩土器、シカ、イノシシ、マダイ、スズキなど動物遺存体などが出土している。

（2）調査要項

遺跡名 二月田貝塚（空墓貝塚）（県遺跡地名表登録番号 20002）

調査地 七ヶ浜町吉田浜字台地内

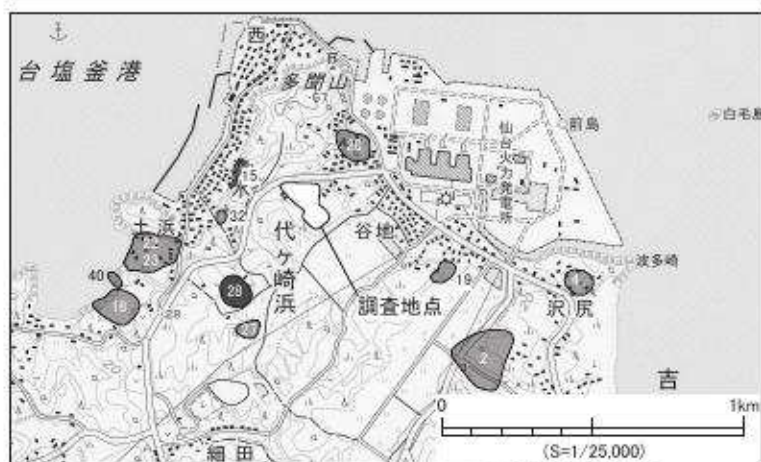
調査原因 吉田浜台地区災害公営住宅・高台住宅団地整備

調査担当 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）

調査期間 平成25（2013）年4月5日～4月17日 対象面積 8,825㎡ 調査面積 129㎡

（3）調査の方法と成果

吉田浜地区では既存集落に隣接する台地区の丘陵上に、木造平屋の災害公営住宅9戸、高台住宅団



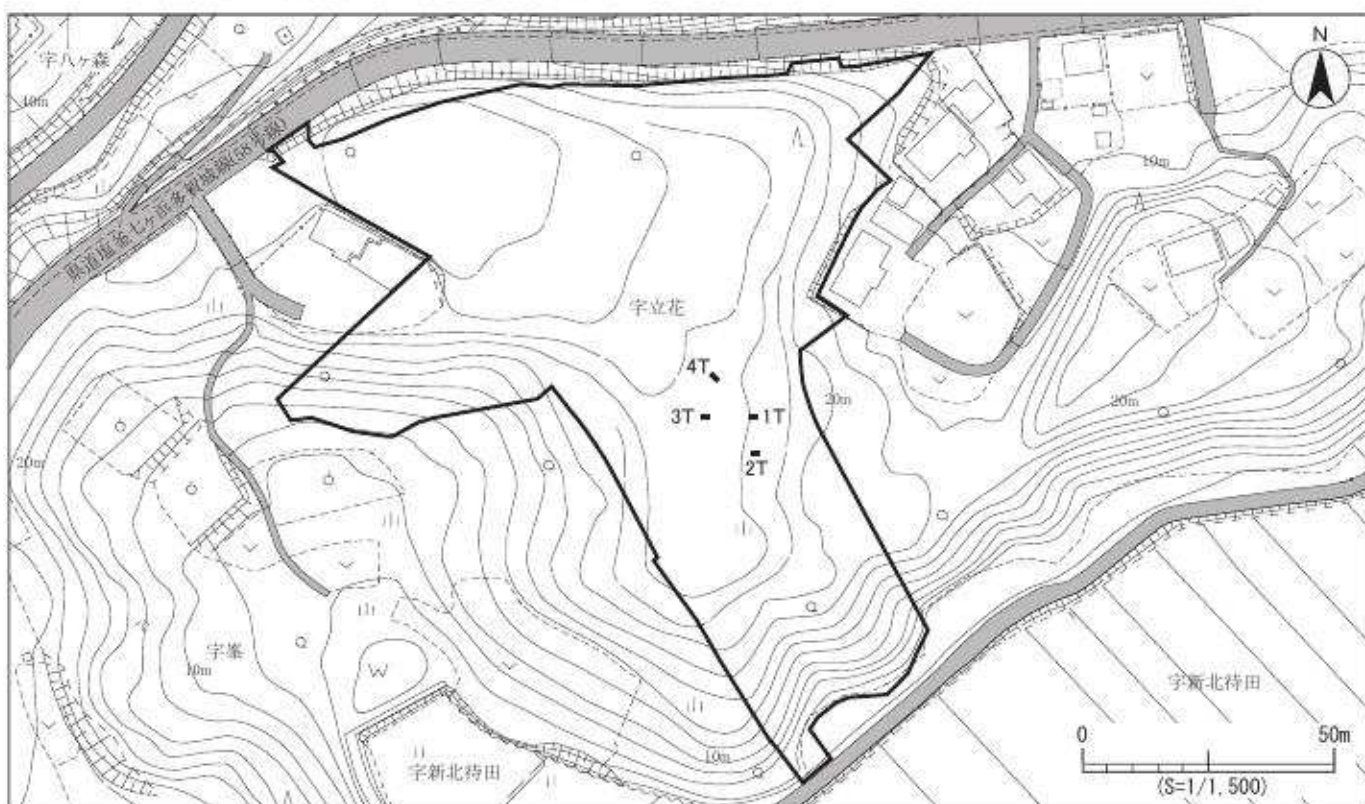
第19図 峯貝塚の位置と周辺の遺跡

峯貝塚（隣接地）

所在地		時代	
七ヶ浜町代ヶ崎浜字峯ほか		縄文晩期・弥生・古代	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20028	なし	貝塚・製塩	丘陵・低地
出土品		縄文土器・弥生土器・製塩土器ほか	

周辺の遺跡

- 2：二月田貝塚（縄文・弥生・古代）
- 15：清水洞窟貝塚（弥生・古墳・古代）
- 18：水浜遺跡（縄文・弥生・古代） 19：神明遺跡（古代?）
- 20：影田貝塚（古代） 22・23：土浜A・B貝塚（古代）
- 27：沢上貝塚（縄文） 40：水浜横穴墓（古代）
- 41：沢尻貝塚（縄文・弥生・古代）



□：高台移転地・災害公営住宅・地区避難所整備範囲

第20図 トレンチ配置図

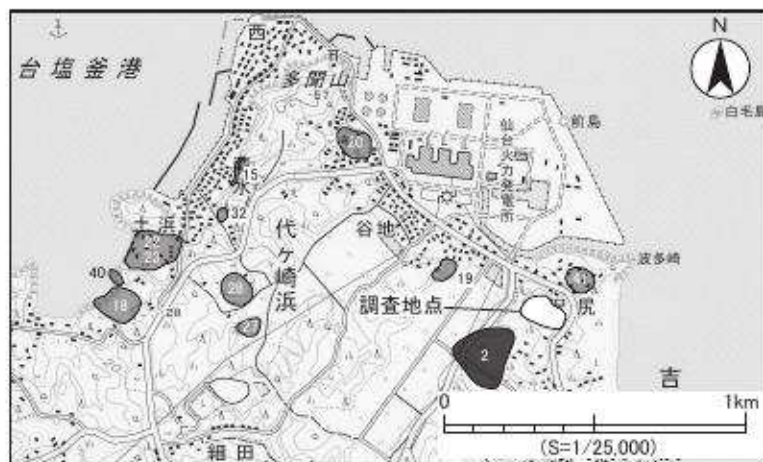
地6区画を整備する防災集団移転促進事業が計画された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、計画地の南西側に二月田貝塚が所在することから、二月田貝塚との関わりや未発見の遺跡の有無の確認が必要であると判断し、確認調査を行った。現況では、計画地南西側は丘陵が削平され平坦になっており、北東側は丘陵となっている。この平坦地は、昭和30年代に東北電力株式会社仙台火力発電所建設に際して建設作業員用宿舎を整備するために、丘陵を削平し、沢の一部を埋め立てて造成した場所とされている。

計画地内にトレンチ11本（1～11トレンチ）を設定して、重機を使用して掘削を行ったが（第22図）、遺構・遺物は確認されなかった。1・2トレンチから沢を埋めている盛土を確認し、3トレンチでは盛土下に旧表土を確認した。丘陵部の4～11トレンチで表土直下に地山を検出した。今回の調査では、

遺構・遺物は確認できなかった。掘削後に、土層堆積状況の観察・記録、写真撮影を行った後に、重機で埋め戻しを行った。

(4) まとめ

今回の調査では、丘陵が大きく削平されており、遺構・遺物は確認されなかったことから、二月田貝塚の範囲は計画地まで広がらないこと、また未確認の埋蔵文化財も所在しないことが明らかになった。以上のことから、計画地での工事は当初の計画通りに実施して問題がないと判断した。



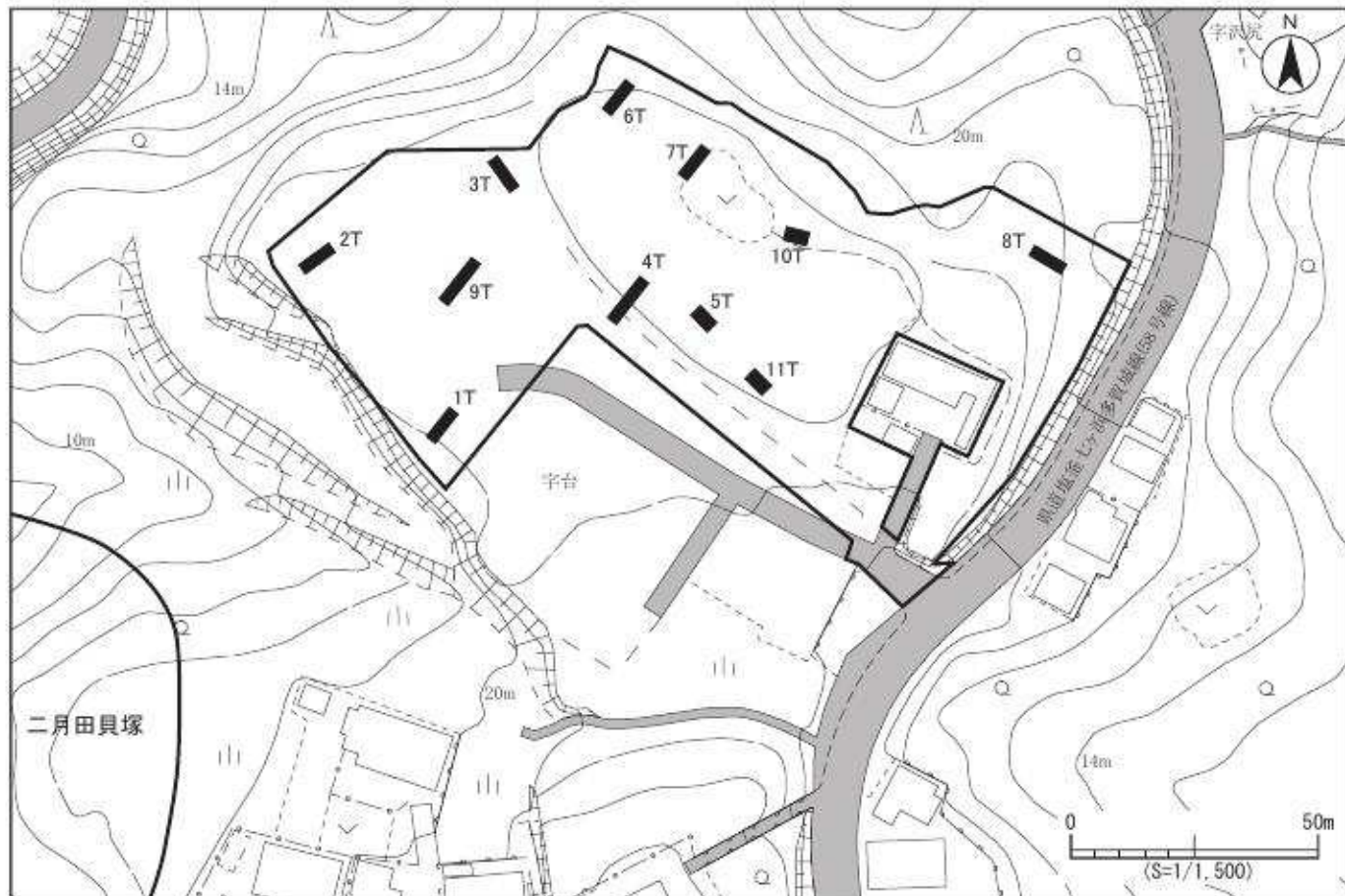
二月田貝塚（隣接地）

所在地		時代	
七ヶ浜町吉田浜字二月田ほか		縄文後晩期・弥生・古代	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20002	あり(1972年ほか)	貝塚・集落跡	丘陵・低地
出土品		縄文土器・弥生土器・製塩土器・土偶ほか	

周辺の遺跡

- 15: 清水洞窟貝塚 (弥生・古墳・古代)
- 18: 水浜遺跡 (縄文・弥生・古代) 19: 神明遺跡 (古代)
- 20: 影田貝塚 (古代) 22・23: 土浜A・B貝塚 (古代)
- 27: 沢上貝塚 (縄文) 28: 峯貝塚 (縄文・古代)
- 40: 水浜横穴墓 (古代)
- 41: 沢尻貝塚 (縄文・弥生・古代)

第21図 二月田貝塚の位置と周辺の遺跡



□ 高台移転地・災害公営住宅整備範囲

第22図 トレンチ配置図

6 表浜貝塚（第23～37図、写真図版9～12、27・28）

（1）遺跡の概要

表浜貝塚は七ヶ浜町花測浜字浜沼、表浜一、表浜二地内に所在する古墳時代後期～平安時代の貝塚・製塩遺跡である（第24図）。町内には長須賀遺跡や水浜遺跡、土浜A・B貝塚など陸奥国府多賀城へ塩を供給する、平安時代の製塩遺跡が点在しており（第23図）、本遺跡もこのような製塩遺跡群の一つと考えられる。表浜海岸背後の浜堤上に位置し、現況は畑地である。震災以前は遺跡内に住宅地が広がっており、これまでに昭和63（1988）年、平成元（1989）年、平成11（1999）年に個人住宅建築に伴う確認調査（1～4次）が行われている。1～4次調査では竪穴住居跡や炉跡を検出しており、土師器や須恵器、製塩土器、骨角製品、卜骨、動物遺存体などが出土している（第31図1～13）。表浜海岸の崖面には、奈良～平安時代の土師器・須恵器が出土した高山横穴墓群が所在し、本遺跡の墓域と考えられている。

（2）調査要項

遺跡名 表浜貝塚（宮城県遺跡地名表登録番号 20003）

調査地 七ヶ浜町花測浜字浜沼、表浜一、表浜二地内

調査原因 津波防災緑地（都市公園）整備

調査担当 田村正樹（七ヶ浜町教育委員会）

調査期間 25年度（5次調査）平成25（2013）年8月1日～平成26年1月30日

26年度（6次調査）平成27（2015）年2月17日～3月17日

27年度（7次調査）平成27（2015）年5月22日～7月3日

対象面積 約50,000㎡

調査面積 25年度（5次）：1,120㎡ 26年度（6次）：30㎡ 27年度（7次）：47㎡

（3）調査の方法

町復興推進課より表浜海岸の防潮堤の背後地に津波防災緑地（都市公園）を整備する計画が示され、遺跡範囲のほぼ全体が計画地にかかることが判明した。過去の調査成果から計画地内に遺構が残存していると推定されたため、遺跡の性格、遺構面の深さ、遺跡の範囲などを確認するために、計画地の約50,000㎡を対象に平成25～27年度に確認調査を実施した。計画地は震災以前、町道沿いに住宅地や畑地が点在していたが、南側（表浜海岸方向）と北側の2方向からの津波により、甚大な被害を受けた地区である。25年度は町道に囲まれた範囲にトレンチを設定して、26・27年度は25年度調査区の東側と西側にそれぞれトレンチを設定し、重機で掘削を行った。各トレンチの精査後に、遺構平面図・トレンチ平面図・土層断面図の作成、写真撮影を行った。遺構平面図、トレンチ平面図の測量には電子平板を使用した。測量作業終了後に重機で埋め戻しを行った。

25年度（5次調査）

25年度は、被災住宅の基礎撤去などが進んでいなかったことから、住宅地内に点在する畑地や空地にトレンチ14本（1～14トレンチ）を設定し、重機を使用して掘削を行った（第25図）。調査区中央部の1～3・8・9トレンチから炉跡や土坑、溝跡、焼土面、貝層などを検出した（第26図）。

調査区の中央は周囲よりやや高い浜堤となっており、遺構の多くはこの浜堤上に分布すると考えられる。8次調査区（27年度）の28、29トレンチからも炉跡や貝層を検出しており、浜堤は8次調査区まで延びていることが分かった。調査区南側（2・3トレンチ）では旧表土の上に70cm程の黄褐色の盛土が確認され、過去に道路面に合わせて土地の嵩上げが行われたことが分かった。2トレンチの

中央部では、盛土下から炉跡や土坑、溝跡、被熱による赤変した砂の広がりなどを検出している。トレンチ断面の観察から土坑（SK1）付近より南側で砂層（9・10層）が厚さを増して堆積する状況が確認された（第27図）。浜堤の北側にあたる5・7・10・13・14トレンチ付近は周囲よりやや低くなっており、7・10トレンチの南側では起伏のある地形を平坦に埋めるように、破碎された貝類を含む暗褐色～黒褐色の砂層が堆積していた（写真図版10-⑦、11-⑧）。何らかの要因で南側から運ばれた貝類や遺物などを含んだ土砂が再堆積したものと考えられる。この砂層の下層からは被熱した凝灰岩や炭化物を含む炉跡（SL4）を検出している。調査区北側の5・6トレンチでは、表土を除去後すぐに地山の砂層を検出したことから、後世の削平を受けていることが分かった。調査区西側の11・12トレンチでは道路面から2m程盛土造成がされており、遺構、遺物は確認できなかった。調査区内で最も低い8・9トレンチでは、表土から10数cm下層で遺構を検出する場合もあった。

26年度（6次調査）

26年度は、25年度調査区西側の旧住宅地にトレンチ5本（15～19トレンチ）を設定し、重機を使用して掘削を行ったが（第25図）、遺構・遺物は検出されなかった。19トレンチでは11・12トレンチと同様に盛土を確認した。26年度調査区周辺では、過去に住宅建築に伴う確認調査（1～4次）が行われており、竪穴住居跡やカマド跡、石組みを持つ長楕円形の製塩炉、土坑、多数のピットを検出されている。遺物もロクロ成形の土師器坏や甕を主体に、須恵器、薄手・厚手の製塩土器、骨角製品（第31図5～9・11～13）、砥石、土錘等が出土している。今回の調査では遺構・遺物は確認されなかったが、前述の1～4次調査の成果から遺跡西側にも遺構が広がることは明らかである。

27年度（7次調査）

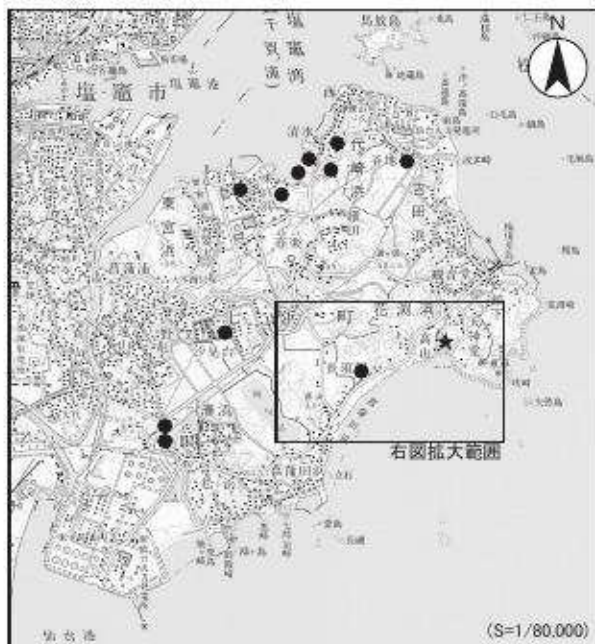
7次調査は、25年度調査区の南東側と北東側にトレンチ6本（20～25トレンチ）を設定し、重機を使用して掘削を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。20～23トレンチは浜堤の南側、表浜海岸の砂浜際であることから、遺跡の範囲外または遺跡範囲際にあたると思われる。23トレンチ床面で黒色砂層（5層）内に暗褐色の砂層（6層）が面的に広がる状況を確認した（写真図版12-⑧）。24・25トレンチでは表土下で粘土層や盛土を確認した。周辺はかつて水田として利用されていた場所であることから、水田の耕作土と考えられる。

（4）発見された遺構と遺物

25年度（5次調査）

遺構：1～3・7～9トレンチで炉跡5基、土坑1基、貝層4ヵ所、溝跡1条、性格不明遺構が7基検出されている。2トレンチでは被熱した石組みを伴う炉跡が2基検出されており、炉周辺では被熱による赤変も確認された。炉跡を覆う4・5層からロクロ成形の土師器坏や甕、須恵器坏が出土していることから、平安時代の炉と考えられる。製塩炉と考えられるが、周囲から製塩土器はほとんど出土しないことから、竪穴住居に伴うカマドの可能性も考えられる。しかし調査では住居壁面の立ち上がりや煙道など、竪穴住居跡の存在を示す痕跡は確認できなかった。8トレンチでは3地点の貝層を検出した。貝層2・3は同一のレベルで検出したが、貝層4はこれらより下層で検出した。貝層4はイガイとカキを主体とした貝層で、ロクロ成形の土師器や須恵器、製塩土器、古墳時代後期の非ロクロ成形の土師器坏や関東系土師器の在地模倣品と考えられる坏などが伴っている。性格不明遺構の中には、SX5のように硬く締まった硬化面を持つものもある。

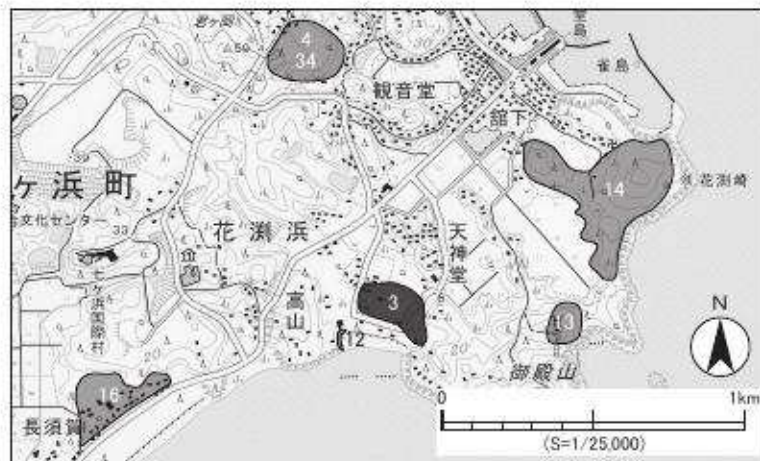
遺物：古墳時代後期の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、製塩土器、骨角製品、鉄製品、動物遺存体（貝類・獣骨）などが出土している。その大半は複数の時代の遺物が混在している表土下の



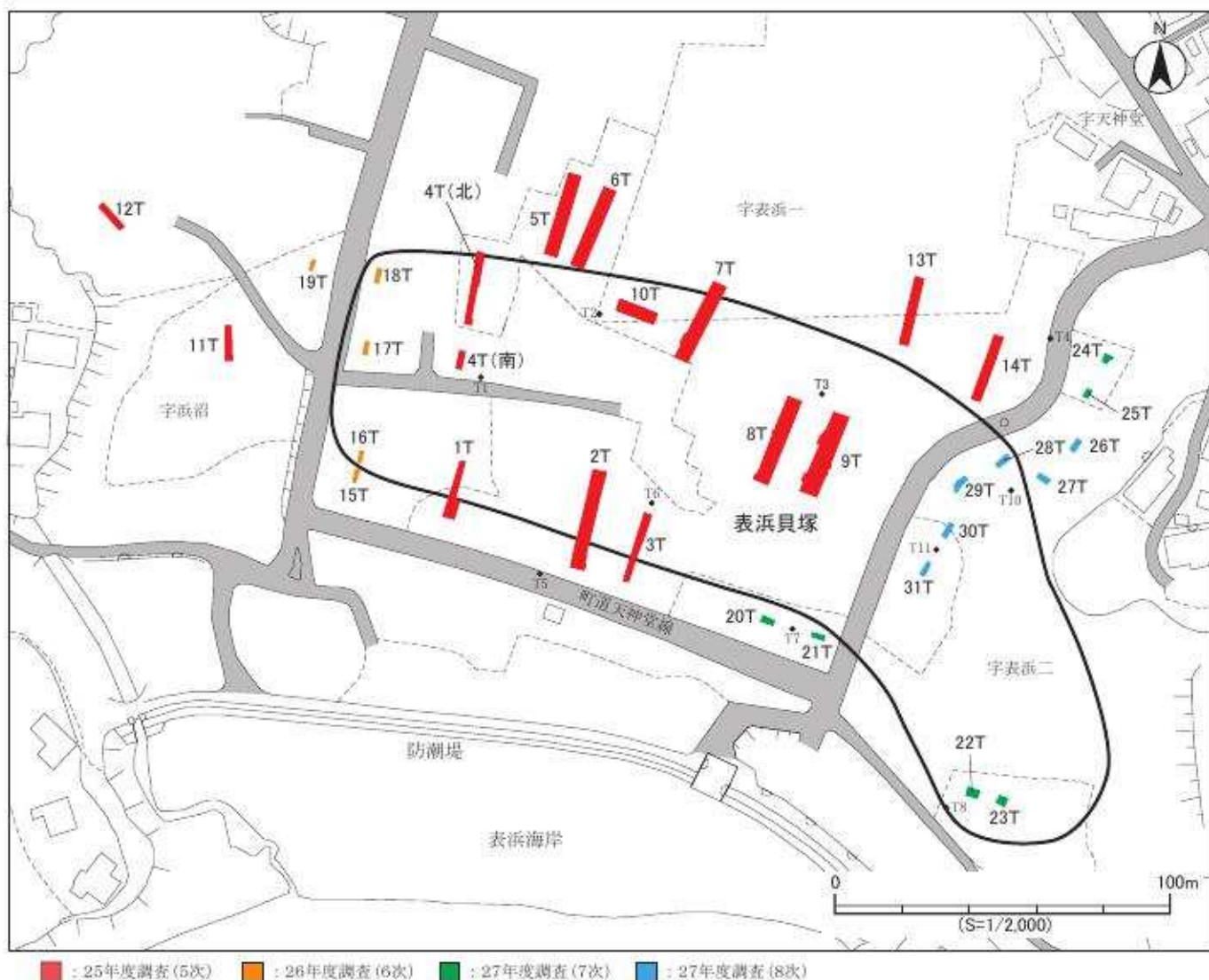
第23図 七ヶ浜町内の古代製塩遺跡

表浜貝塚

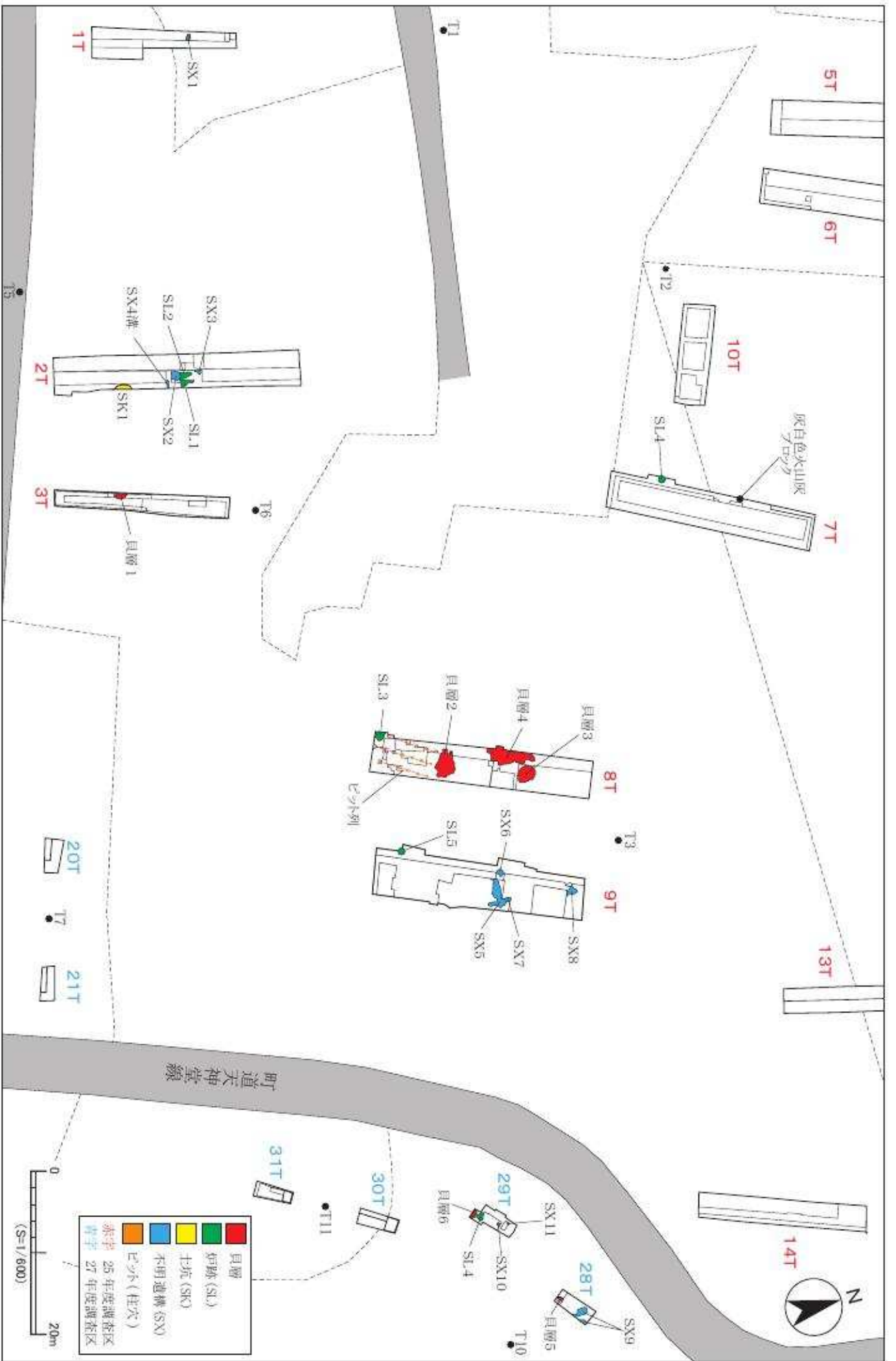
所在地		時代	
七ヶ浜町花淵浜字表浜一ほか		古墳後期～平安	
遺跡番号	過去の調査歴	種別	立地
20003	あり	貝塚・製塩	浜堤



第24図 表浜貝塚の位置と周辺の遺跡



第25図 トレンチ配置図



赤字	貝層
青字	好跡 (SL)
	土坑 (SK)
	不明遺構 (SX)
	ピット (柱穴)
	25年度調査区
	27年度調査区

※28～31ピットは8次調査区

第26図 平成25・27年度調査区遺構配置図

砂層からの出土である。古墳時代後期の土師器は、関東系土師器と呼ばれる口縁部に漆を塗布した土師器坏やこれらを在地で模倣した土師器坏などが出土しており、奈良・平安時代の遺物は土師器の坏・甕・蓋・高坏、須恵器の坏・甕・壺・蓋、製塩土器、手捏土器、土錘、複合釣針や弭などの骨角製品、長頸鏃や刀子などの鉄製品が出土している。複合釣針については、1～4次調査も含めて完成品や未製品など複数出土している。第37図4は「宮木」の刻書のある須恵器片である。37図は13は愛知県知多半島や渥美半島などで出土する先尖りの棒状脚を有する製塩土器と考えられる。長須賀遺跡においても同様の棒状脚と思われる破片が出土している。愛知県では古墳時代中期後葉（5世紀後半）に知多半島において、筒形の脚部を有する製塩土器が開発され、これ以降知多・渥美半島で盛んに製塩が行われる。7世紀初頭に筒形脚から先尖りの棒状脚に次第に変化していき、9世紀前半まで製塩が続くとされる。表浜貝塚や長須賀遺跡で出土している破片は、知多・渥美半島周辺からもたらされたものであれば、先尖りの棒状脚で、7世紀前半～9世紀前半の知多式4類・渥美式D類に相当する段階と思われる。動物遺存体については、貝類は貝層4から多様な貝類が出土しており、マガキ、イガイ、シオフキガイを主体として、ハマグリ、アサリ、スガイ、ツメタガイ、イボニシ、イシダタミ、レイシガイ、アカニシ等が出土している。また、動物骨はシカ、ウマ、カメなどが出土している。

（5）考察 「宮木」刻書土器

「宮木」刻書土器（第37図4）は、13トレンチから出土した須恵器の破片で、壺または甕の肩部と考えられる。13トレンチは遺構が集中する浜堤の北側にあたり、遺構が希薄な部分である。出土層位の3層は二次堆積層と考えられ、遺構に伴う出土状況ではない。平行タタキ目の調整が残る外面に細い工具による「宮木」の刻書が見られる。「宮木」に類似する文字が見られる資料には、墨書によるものと刻書によるものの2種類があり、墨書によるものとしては多賀城跡出土の「宮」（土師器坏・平安時代）、多賀城市山王遺跡出土の「宮郡」（須恵器坏・8世紀中葉～後葉）や「宮城」（須恵器高台坏・9世紀前葉）、同市川橋遺跡出土「宮木」（土師器坏・8世紀中葉）などがある。刻書によるものは、利府町春日窯跡SR132窯跡とSR131・132灰原から12点出土している。須恵器の坏、高台坏、蓋に「宮城郡」、「□城郡」、「宮木」、「宮□」などの刻書が見られる。坏と高台坏は底部、蓋は内面にそれぞれ刻書があり、これらは8世紀前葉に位置付けられている。「宮木」は「宮城郡」を指すとの指摘がある（宮城県教育委員会2001）。春日窯跡出土資料から「宮木」や「宮城」の表記が8世紀前半にすでに用いられており、「宮木」から「宮城」への表記が移行する時期であると考えられる。8世紀半ば頃とみられていた宮城郡の成立も8世紀前半に遡る可能性を示している。

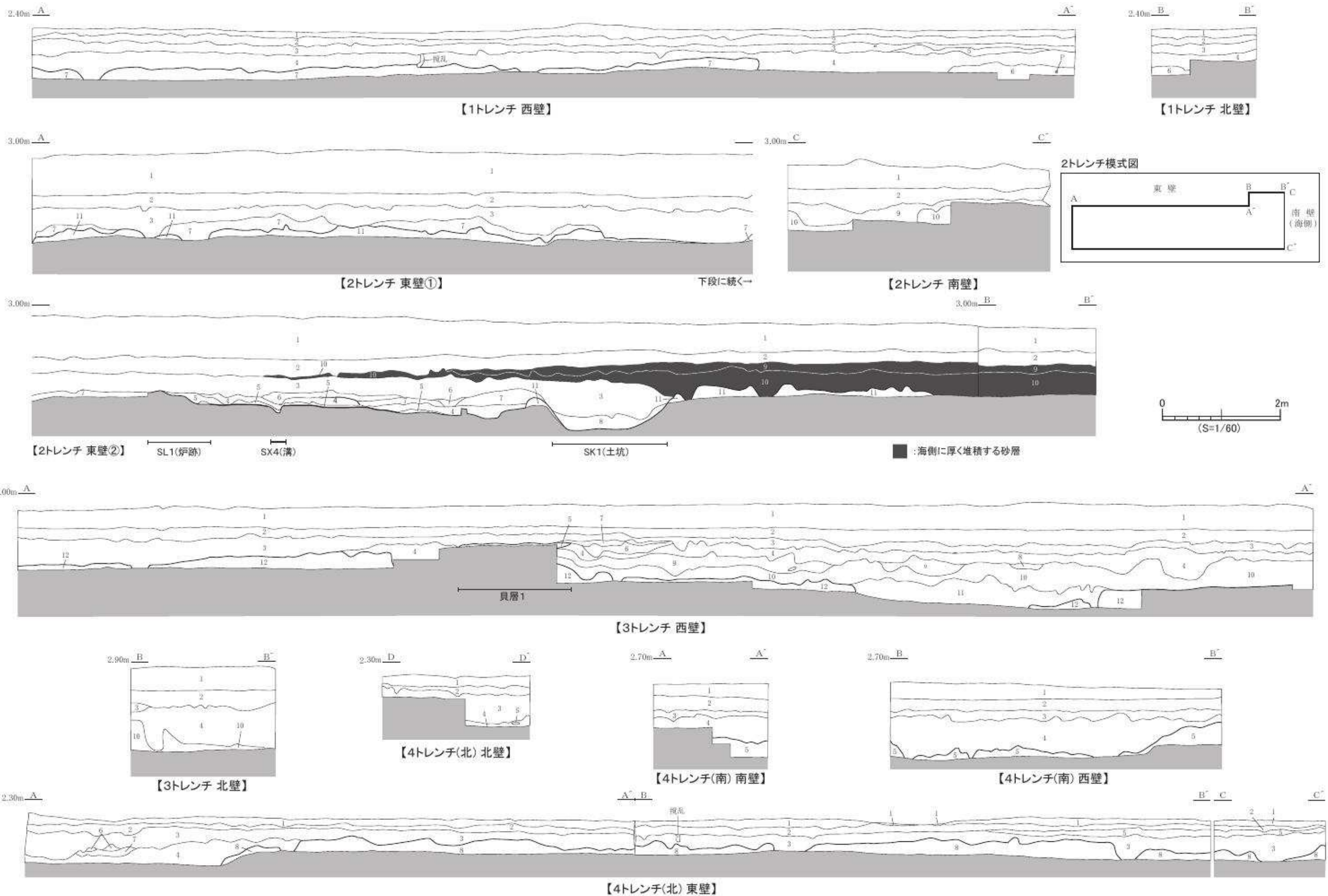
刻書の特徴について、春日窯跡出土の「宮木」の刻書は丸みのある刻跡だが、表浜貝塚のものは角が目立つ刻跡で、前者より太めの字体という特徴がある。また、春日窯跡では「宮城郡」と「宮木」の刻跡にも違いが認められることから、刻書に携わった人物の違いが想定されている（利府町教育委員会2011）。本資料の供給窯については、刻書に複数の工人が関わっていたと考えられる春日窯跡が有力であるが、未知の窯からの供給である可能性も考えられ、今後さらなる検討が必要である。

（6）まとめ

5～7次調査では、調査区中央の浜堤を中心に、古墳時代後期～平安時代の炉跡5基、土坑1基、貝層4カ所、溝跡1条などを検出した。また、当初想定されていた遺跡の範囲よりさらに東～南東側に拡がることが確認できた。調査区の北側は、破砕された貝類や古代の遺物を含む砂層が地山を覆って堆積していることを確認した。表浜貝塚では、土師器や須恵器の他に、製塩土器、複合釣針などの骨角製品、鉄製品などが出土しており、古墳時代後期～平安時代の長期間にわたり、塩の生産のほか、漁撈や狩りなどの生業を行う拠点として機能していたことが明らかになった。また、表浜貝塚出土の

「宮木」の刻書土器や高山横穴墓出土の東海系須恵器、式内社の鼻節神社に伝わる青銅製の古印「国府厨印」の存在など、表浜貝塚や周辺の遺跡・神社から多賀城や関東・東海地方との関わりを示す遺物が見つかっており、7世紀後半～10世紀頃の七ヶ浜町内において中核的な施設の一つとして機能していた可能性が高いと考えられる。

緑地整備では町道に囲まれた遺跡中心部については、盛土による造成後に植栽を中心とした整備を行い、遺跡南側の町道沿いに駐車場などの便益施設を整備する計画である。盛土造成については、盛土厚を2m以下とするなど、遺構面に影響のないような計画であるが、計画の詳細が未定な部分もあり、今後整備計画がより具体化した段階で関係機関と再度協議を行い、さらなる調査の必要性があれば順次対応する予定である。



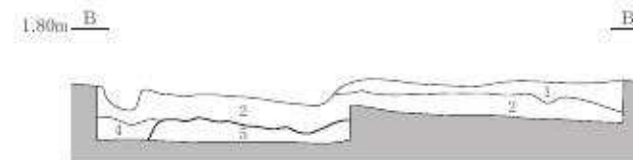
第27図 表浜貝塚1~4トレンチ断面図



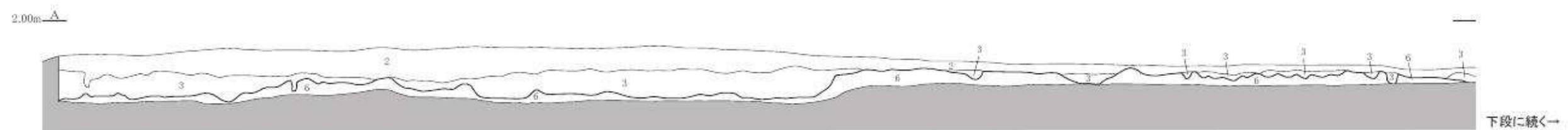
【5トレンチ 西壁①】



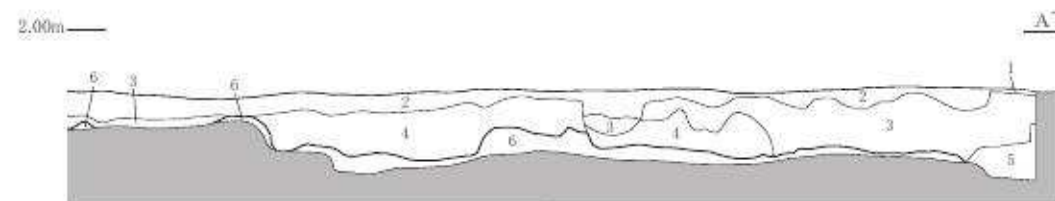
【5トレンチ 西壁②】



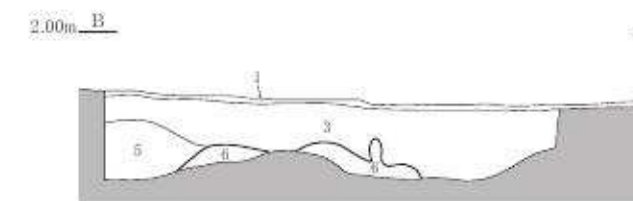
【5トレンチ 北壁】



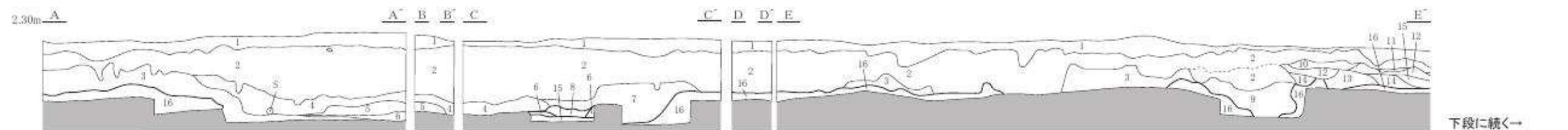
【6トレンチ 東壁①】



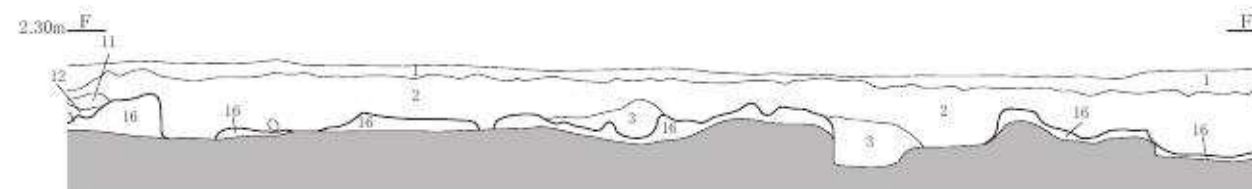
【6トレンチ 東壁②】



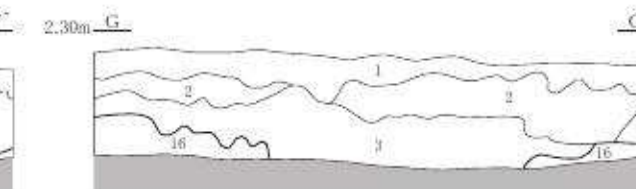
【6トレンチ 南壁】



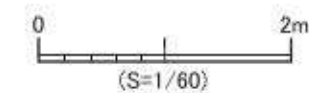
【7トレンチ 西壁①】



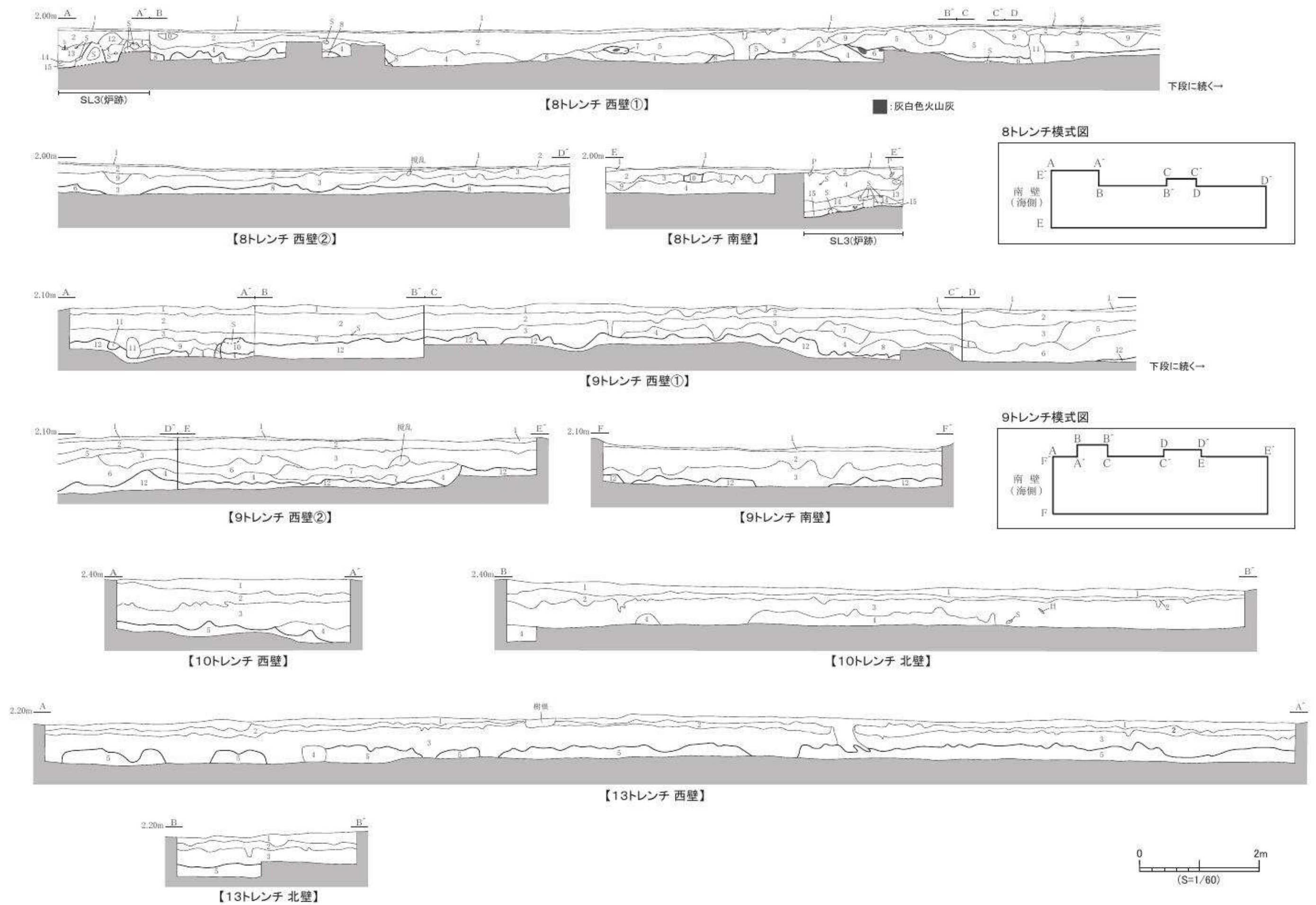
【7トレンチ 西壁②】



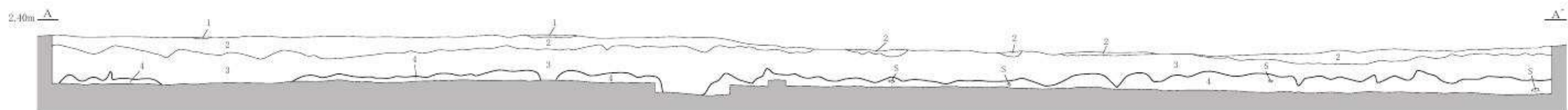
【7トレンチ 南壁】



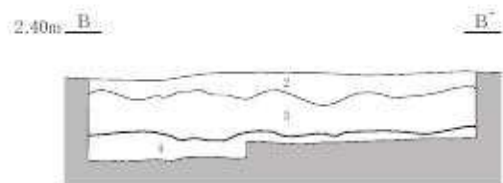
第28図 表浜貝塚5～7トレンチ断面図



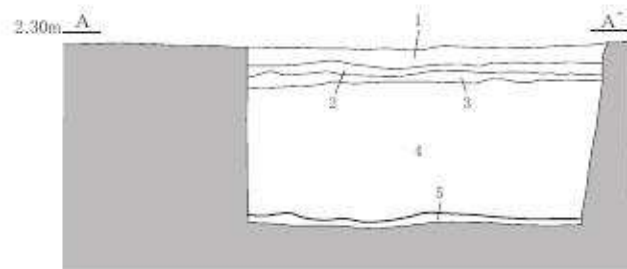
第29図 表浜貝塚8~10・13トレンチ断面図



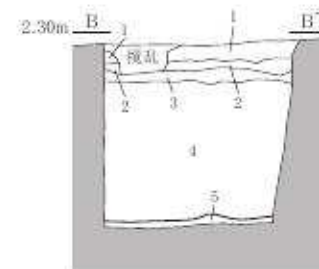
【14トレンチ 東壁】



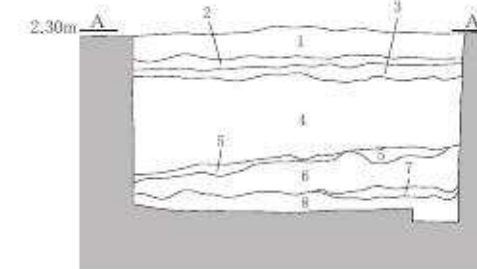
【14トレンチ 南壁】



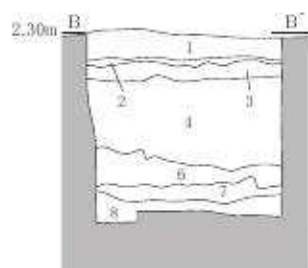
【15トレンチ 西壁】



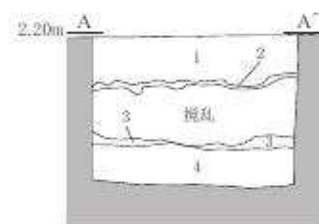
【15トレンチ 北壁】



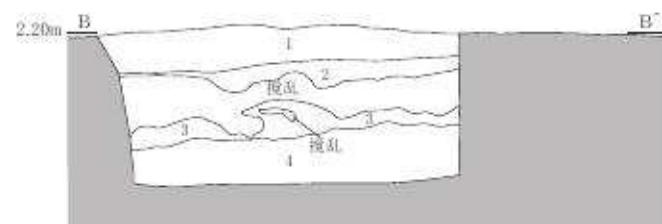
【16トレンチ 西壁】



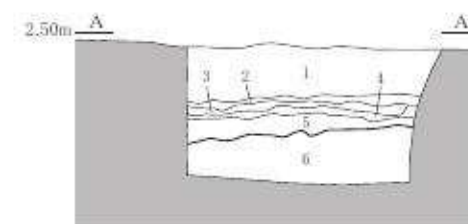
【16トレンチ 北壁】



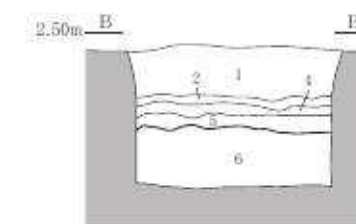
【17トレンチ 南壁】



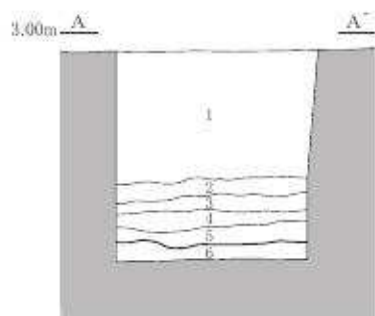
【17トレンチ 西壁】



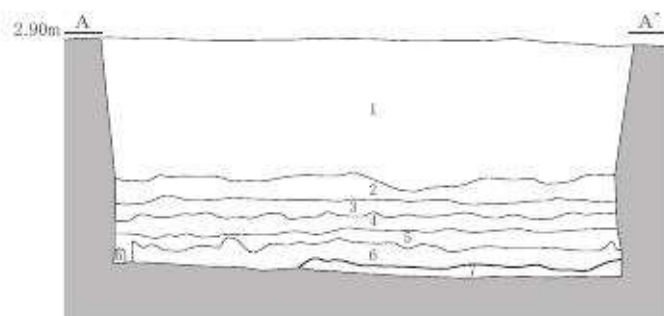
【18トレンチ 西壁】



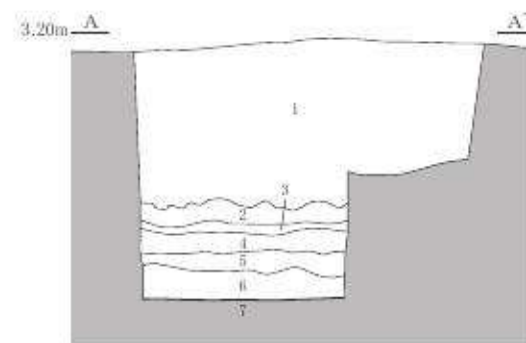
【18トレンチ 北壁】



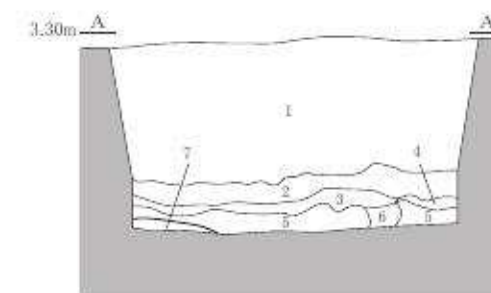
【20トレンチ 東壁】



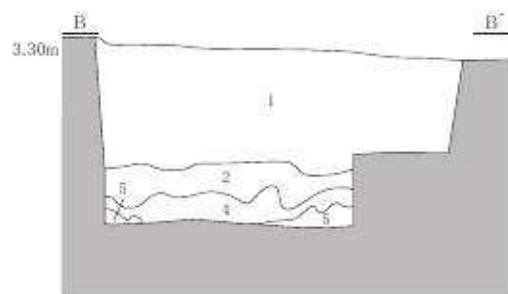
【21トレンチ 北壁】



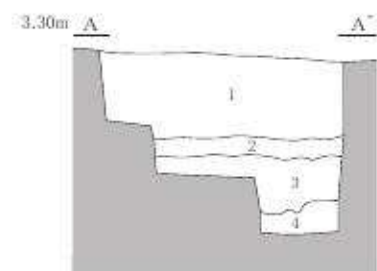
【22トレンチ 西壁】



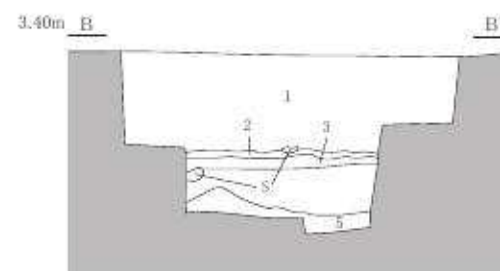
【23トレンチ 北壁】



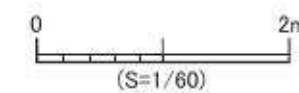
【23トレンチ 東壁】



【24トレンチ 南壁】



【25トレンチ 北壁】



第30図 表浜貝塚14～18・20～25トレンチ断面図

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	表土 部分的にオリーブ褐色(2.5Y4/4)の盛土が混じる根を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された土器片・凝灰岩粒・炭化物を含む(面積割合2~3%)
3	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された土器片・凝灰岩粒・炭化物を含む(面積割合2~3%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	土器片・凝灰岩片を含む(面積割合1~2%)
5	砂層	砂	黒褐色 10YR3/2	凝灰岩片を含む(面積割合1~2%)
6	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	凝灰岩粒・小礫を含む(面積割合1~2%)
7	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山

第12表 1トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	土層	シルト	黄褐色 10YR5/6	表土 盛土 根・礫を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	旧表土(盛土以前の表土) 破碎された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合5~7%)
3	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩片を含む(面積割合25~30%)
4	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩片を含む(面積割合10~15%)
5	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合3~5%)
6	混貝土層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合7~15%) 過去の津波によって運ばれた砂
7	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された貝殻・炭化物・凝灰岩粒を含む(面積割合2~3%)
8	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	SK1の埋土下部 破碎された貝殻を少量含む(面積割合1~2%)
9	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された貝殻・凝灰岩粒を含む(面積割合1~2%)
10	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	貝殻・凝灰岩粒を含む(面積割合2~3%)
11	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山 SK1付近では褐色(7.5YR4/6)を呈する

第13表 2トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	土層	シルト	黄褐色 2.5Y5/6	現表土 盛土 根・大型の凝灰岩礫を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	旧表土(盛土以前の表土) 1層との境では黒褐色(10YR3/2)を呈する凝灰岩粒を含む(面積割合3%)
3	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合3~5%) 北側では4層と思われる土が斑状に入る部分がある
4	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合2~15%)
5	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された二枚貝(イガイ主体・カギ等)を含む(面積割合50%)
6	混貝土層	砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された貝殻・凝灰岩粒を含む(面積割合7~10%)
7	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・炭化物小片を含む(面積割合2~3%)
8	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・小礫・凝灰岩粒を含む(面積割合7~10%)
9	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・礫を含む(面積割合10~15%)
10	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・凝灰岩粒を含む(面積割合5~7%)
11	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された貝殻・凝灰岩粒を含む(面積割合1~2%)
12	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	地山

第14表 3トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土 根・小礫を含む
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	根・破碎された土器片を含む(面積割合1~2%)
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片・小礫・凝灰岩を含む(面積割合10~15%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	礫を含む
5	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%) 3層と思われる黒褐色土(10YR2/2)が斑状に入る
6	混貝土層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	破碎された貝殻(二枚貝主体)を含む(面積割合40~50%)
7	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻を含む(面積割合15%)
8	砂層	砂	にぶい黄褐色 10YR4/3	地山

第15表 4トレンチ(北)土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	土層	シルト	黄褐色 2.5Y5/6	現表土 盛土 大小の礫(凝灰岩等)を含む
2	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	旧表土 根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合1~2%) 1層との境では黒褐色(10YR2/2)を呈する
3	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	凝灰岩粒を含む(面積割合1~2%) 黒褐色土(10YR2/3)が斑状に入る
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合1~2%) 部分的に黒色(10YR2/1)を呈する
5	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山

第16表 4トレンチ(南)土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	表土 根を含む 東日本大震災の津波によって運ばれ再堆積した砂
2	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	根・凝灰岩粒・土器片・礫を含む(面積割合1~2%)
3	砂層	砂	褐色 10YR4/4	根を含む
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒・根を含む(面積割合1~2%)
5	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山

第17表 5トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	表土① 根を含む 東日本大震災の津波によって再堆積した砂
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	表土② 根を含む
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合1~3%) 部分的に暗褐色土(10YR3/4)が斑状に入る
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%) 部分的に暗褐色土(10YR3/4)が斑状に入る
5	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	貝殻・土器片を全く含まない
6	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/6	地山

第18表 6トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	表土 根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合3~5%)
2	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合3~50%)
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	根を含む 破碎された貝殻・土器片を含まない
4	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	根・破碎された貝殻・土器片・礫・凝灰岩粒を含む(面積割合3~5%)
5	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩礫を含む(面積割合10~15%)
6	土層	粘質シルト~砂	黄褐色 10YR5/6	褐色(7.5YR4/6)の焼土・オリーブ黒(10YR3/1)の砂の互層 破碎された・赤変した凝灰岩粒を含む炭化物・土器片を含む
7	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された貝殻・凝灰岩の礫と粒・粘土を含む(面積割合7~10%)
8	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・凝灰岩粒・炭化物を含む(面積割合10%)
9	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された貝殻を含む(面積割合2~3%) 地山の砂が斑状に入る ビット埋土
10	火山灰層	灰	黒褐色 10YR2/3	にぶい黄色(2.5Y6/3)の十和田a火山灰ブロックを含む(面積割合50%)
11	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合15~20%)
12	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%)
13	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合3~5%)
14	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	破碎された貝殻を含む(面積割合2~3%) 過去の津波による堆積砂
15	混貝土層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	破碎された貝殻・凝灰岩礫を含む(面積割合30~40%)
16	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山 被熱した凝灰岩礫を含む

第19表 7トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	表土① 東日本大震災の津波によって再堆積した砂
2	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土② 根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合3~5%)
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%)
4	砂層	砂	黒褐色 7.5YR2/2	破碎された貝殻・土器片を少量含む(面積割合1~3%)
5	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	破碎された貝殻・根を極少量含む
6	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/3	二枚貝(カキ、イガイ主体)を多く含む(面積割合40~50%) 土師器、須恵器、製塩土器を含む
7	混貝土層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	二枚貝(カキ、イガイ主体)を多く含む(面積割合40~50%) 土師器、須恵器、製塩土器を含む
8	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	地山 根を含む
9	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	過去の津波で運ばれた砂
10	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	柱穴19の堆積土 凝灰岩粒・破碎された貝殻などを含む(面積割合15%)
11	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合3~5%)
12	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	SX04埋土 根・凝灰岩粒を含む(面積割合2~3%)
13	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	SX04埋土 破碎された貝殻・土器片・礫・凝灰岩粒を含む(面積割合3~5%)
14	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・凝灰岩片を含む(面積割合2~3%)
15	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	破碎された貝殻・凝灰岩礫を含む(面積割合3~5%)

第20表 8トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土① 東日本大震災の津波によって再堆積した砂
2	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	表土② 根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合2~3%)
3	混貝土層	砂	黒色 10YR2/1	根・破壊された貝殻・土器片を含む(面積割合5~20%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	貝殻・土器片を含まない
5	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	貝殻・土器片を含まない
6	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	貝殻・土器片を含まない
7	混貝土層	砂	黒褐色 2.5Y3/2	二枚貝(カキ主体)・土器片を含む(面積割合15%)
8	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	破碎された貝殻・土器片・凝灰岩粒を含む(面積割合5%)
9	土層	粘質シルト	暗褐色 7.5YR3/3	破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合7%)
10	土層	粘土~粘質シルト	褐色 7.5YR4/4	炉床の粘土 破碎された貝殻を含む(面積割合1~2%) 被熱により赤変した凝灰岩礫を含む
11	砂層	砂	黒色 10YR2/1	貝殻・土器片を含まない
12	砂層	砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	地山

第21表 9トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土 根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%)
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	根・破碎された貝殻・土器片を含む(面積割合5~7%)
3	混貝土層	砂	黒褐色 10YR2/2	根・二枚貝(ハイガイ、アサリ等)・破碎された土器片を含む(面積割合20~25%)
4	砂層	砂	黒褐色 10YR2/3	根・破碎された貝殻・土器片を極少量含む(面積割合1%)
5	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山 根を含む

第22表 10トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗褐色 10YR3/3	表土 根を含む 東日本大震災の津波によって運ばれ堆積した砂
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	根・凝灰岩粒を含む(面積割合1~2%)
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	根・凝灰岩粒・土器片を含む(面積割合2~3%)
4	土層	粘質シルト	暗褐色 10YR3/3	根・凝灰岩粒・炭化物片を含む(面積割合2~3%)
5	砂層	砂	褐色 10YR4/4	地山

第23表 13トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土① 根を多く含む 東日本大震災による津波で再堆積した砂
2	砂層	砂	暗褐色 10YR3/4	表土② 根を多く含む 礫を含む
3	砂層	砂	黒褐色 10YR2/2	土器片・礫・根を含む(面積割合1~3%)
4	砂層	砂	褐色 10YR4/6	地山 角のとれた礫を含む(面積割合1%)

第24表 14トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	中粒砂~細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土 砂利・根を含む
2	盛土	中粒砂~細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	オリーブ褐色(2.5Y4/6)の中粒砂やオリーブ黒色(5Y3/1)の粘性シルトを含む(面積割合10~15%)
3	盛土	中粒砂~細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	根や礫を含む(面積割合3~5%)
4	盛土	極粗粒砂~細粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	大小の礫を含む(面積割合20~25%)
5	砂層	粗粒砂~中粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	地山

第25表 15トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	砂層	中粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	表土 破碎された貝殻・根・小石を含む(面積割合10%)
2	砂層	粗粒砂~中粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	破碎された貝殻・粘土ブロックを含む(面積割合5~7%)
3	砂層	中粒砂	暗褐色 10YR3/3	小石を含む(面積割合3~5%)
4	盛土	粘質シルト	褐色 10YR4/4	礫を含む(面積割合15~20%)
5	砂層	中粒砂	暗褐色 10YR3/4	小石を含む(面積割合2~3%)
6	砂層	中粒砂	暗褐色 10YR3/3	
7	砂層	中粒砂	褐色 10YR4/6	
8	砂層	粗粒砂~中粒砂	暗褐色 10YR3/4	

第26表 16トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	極粗粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/6	表土 根を含む
2	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/2	根を含む
3	砂層	極細粒砂	黒褐色 10YR2/2	
4	砂層	極細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	地山
攪乱層1	砂層	粗粒砂~中粒砂	黒色 10YR2/1	現代のごみ等を含む
攪乱層2	砂層	中粒砂~細粒砂	黒褐色 10YR2/2	

第27表 17トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	極粗粒砂~粗粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	表土 根を含む
2	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/2	褐色(10YR4/6)の粘土を斑状に含む(面積割合10~15%) 小石を含む
3	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/2	褐色(10YR4/6)の粘土や中粒砂を含む(面積割合30~40%)
4	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	褐色(10YR4/6)の粘土を含む(面積割合5~7%)
5	砂層	細粒砂	黒色 10YR2/1	破碎された貝殻粒や土器粒が含まれる(面積割合3~5%)
6	砂層	細粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/4	地山

第28表 18トレンチ北土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	粘質シルト	オリーブ褐色 2.5Y4/6	現表土 大型の礫を含む
2	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR3/2	旧表土
3	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/3	灰黄褐色(10YR4/2)の砂を斑状に含む
4	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻を含む(面積割合2~3%)
5	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/3	破碎された貝殻を含む(面積割合5~7%)
6	砂層	細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	地山

第29表 20トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	粘質シルト	褐色 10YR4/4	現表土 大型の礫を含む
		細粒砂	黒褐色 2.5Y3/2	
2	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/3	旧表土 炭化物・凝灰岩片を含む(面積割合1%)
3	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/4	炭化物・貝殻片を含む(面積割合1~2%) オリーブ褐色(2.5Y4/3)の細粒砂が4層との境付近に斑状に入る
4	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/3	炭化物・貝殻片を含む(面積割合1~2%) オリーブ褐色(2.5Y4/3)の細粒砂を斑状に含む
5	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻を含む(面積割合1%)
6	砂層	細粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	
7	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	地山

第30表 21トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	粘質シルト・砂利	オリーブ褐色 2.5Y4/6	現表土 大型の礫を含む
2	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	旧表土 破碎された貝殻・土器片・炭化物を含む(面積割合3%)
3	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR3/2	破碎された貝殻・土器片・炭化物を含む(面積割合3%)
4	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/2	破碎された貝殻・土器片・炭化物を少量含む(面積割合2%)
5	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/3	炭化物・破碎された貝殻粒を少量含む(面積割合2%)
6	遺物包含層	中粒砂~細粒砂	黒色 10YR2/1	炭化物・土器片・貝殻片を含む(面積割合10~15%) 西側ほど厚くなる
7	砂層	細粒砂	オリーブ褐色 2.5Y4/3	地山

第31表 22トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	粘質シルト・中粒砂	褐色 10YR4/4	現表土 砂利・大型の凝灰岩礫を含む
			暗オリーブ褐色 5Y4/4	
2	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/2	旧表土 破碎され貝殻・土器片を含む(面積割合3~5%)
3	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR2/3	破碎された貝殻・土器片・炭化物を含む(面積割合2~3%)
4	砂層	細粒砂	黒褐色 10YR3/2	破碎された貝殻・土器片・炭化物を含む(面積割合10~15%)
5	砂層	中粒砂	黒色 10YR2/1	破碎された貝殻・土器片を少量含む(面積割合2%)
6	砂層	中粒砂	暗褐色 10YR3/3	海砂か?
7	砂層	細粒砂	暗褐色 10YR3/4	地山

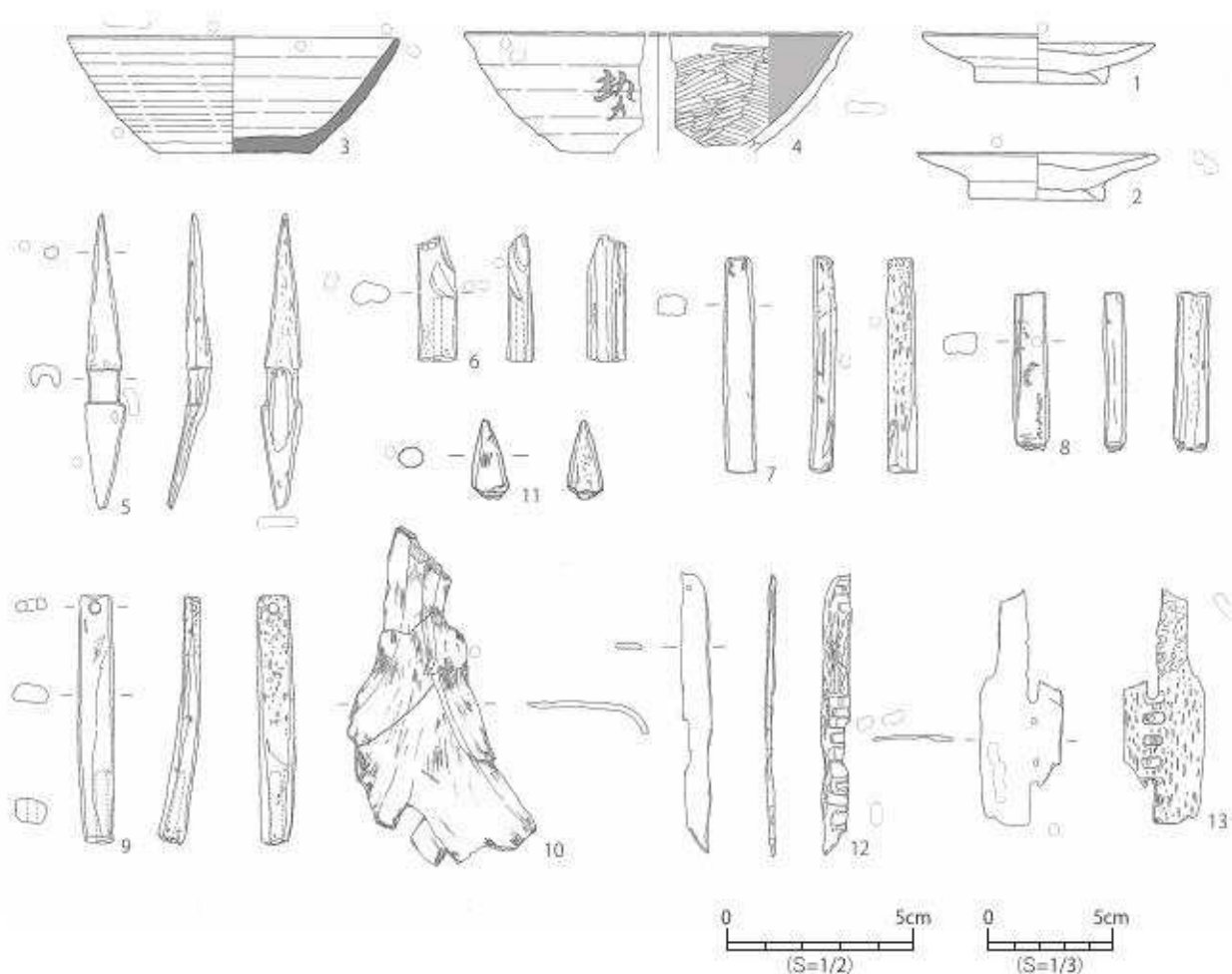
第32表 23トレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	中粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	現表土 礫や砂利を含む
2	盛土	中粒砂	暗灰黄色 2.5Y4/2	
3	盛土	中粒砂	灰オリーブ色 5Y4/2	
4	粘土層	粘土	黒褐色 2.5Y3/2	旧表土 田んぼの耕作土

第33表 24トレンチ土層観察表

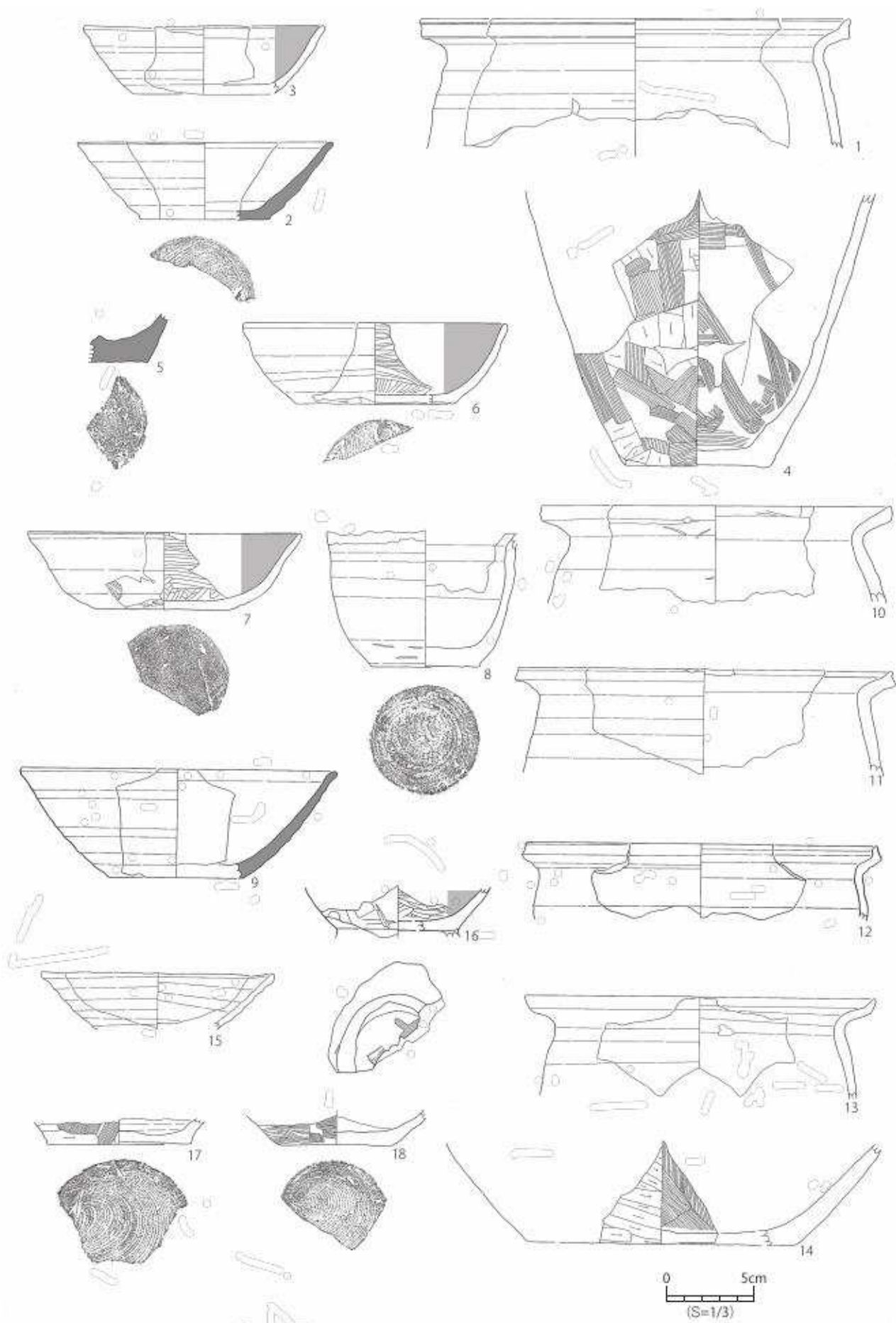
層番号	分類	土質	土色	特徴
1	盛土	中粒砂	暗オリーブ褐色 2.5Y3/3	現表土 礫や砂利を含む 24トレンチ1層と同じ
2	盛土	中粒砂	オリーブ褐色 7.5Y3/2	
3	盛土	中粒砂	暗褐色 10YR3/3	
4	盛土	中粒砂	灰オリーブ色 5Y4/2	24トレンチ3層と同じ
5	粘土層	粘土	黒褐色 2.5Y3/2	旧表土 田んぼの耕作土 24トレンチ4層と同じ

第34表 25トレンチ土層観察表

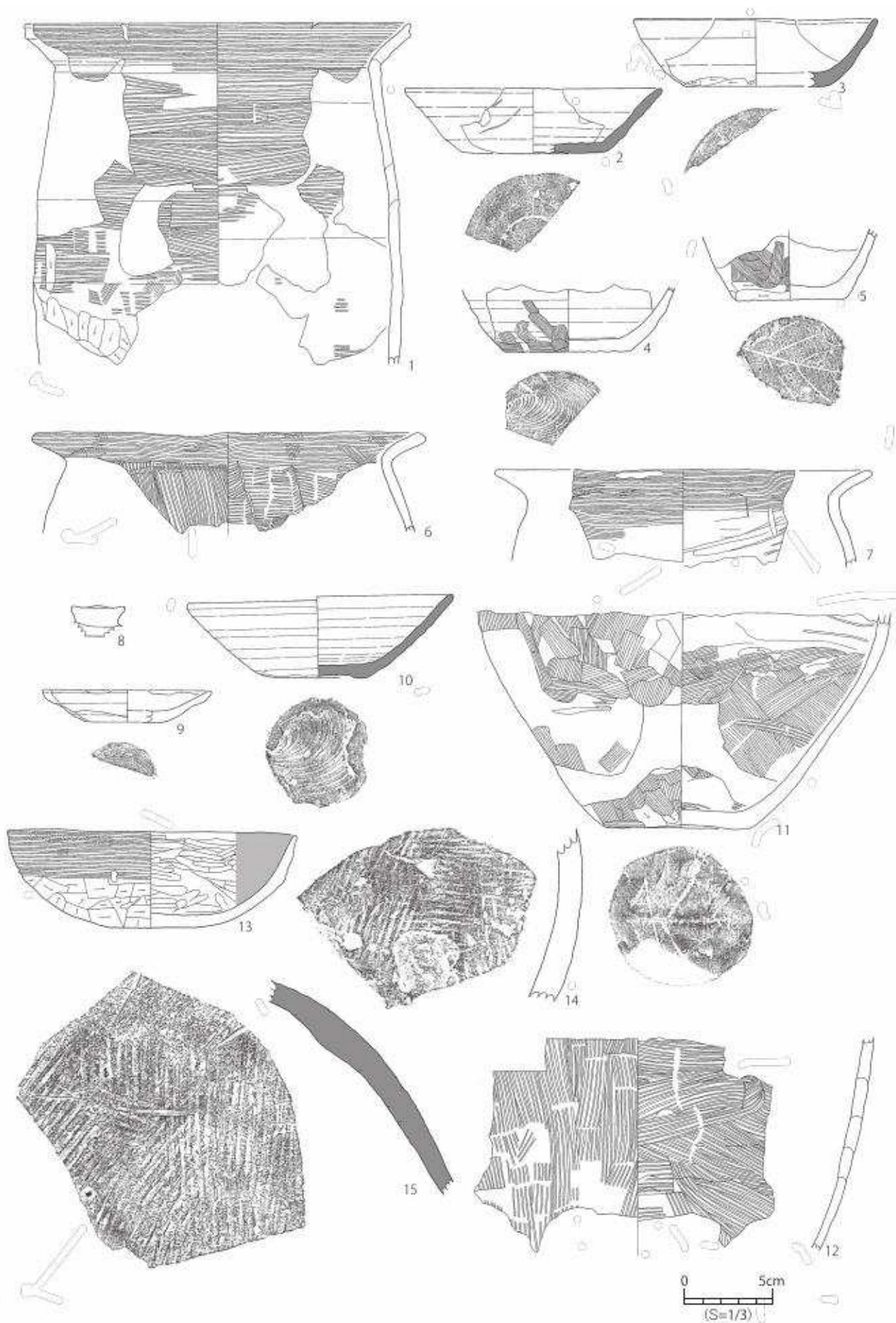


番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真 図版	縮尺			
31-1	2次調査 (1989年)	—	土師器 高台坏	内外面：ロクロナテ 底面：回転系切	9.2	1.9	5.2	表2次-1	—	1/3			
31-2	2次調査 (1989年)	—	土師器 高台坏	内外面：ロクロナテ 底面：回転系切	9.6	1.9	5.3	表2次-2	—	1/3			
31-3	3次調査 (1989年)	—	須恵器 坏	内外面：ロクロナテ 底面：回転系切、無調整	13.0	4.6	6.0	表3次-1	—	1/3			
31-4	3次調査 (1989年)	—	土師器 坏	外面：ロクロナテ、墨書「勢」？ 内面：ミガキ、 黒色処理	(15.4)	(4.7)	—	表3次-2	—	1/3			
番号	トレンチ 遺構	層位	分類	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	状況	特徴等	登録番号	写真 図版	縮尺
31-5	1次調査 (1988年)	—	結頭	鹿角	11.6	1.6	0.9	5.79	完形	開竅式離頭結	表1次-1	28-19	1/3
31-6	1次調査 (1988年)	—	複合釣針	鹿角	(5.0)	(1.5)	(1.0)	(5.94)	未製品		表1次-2	—	1/3
31-7	3次調査 (1989年)	—	複合釣針	鹿角	(8.5)	(1.2)	(0.9)	(9.05)	未製品		表3次-2	28-20	1/3
31-8	3次調査 (1989年)	—	複合釣針	鹿角	(6.2)	(1.4)	(0.9)	(9.25)	未製品	一部焼けている	表3次-3	28-21	1/3
31-9	3次調査 (1989年)	—	複合釣針	鹿角	9.9	1.4	1.0	10.47	完形	貫通口 穴がある	表3次-4	28-22	1/3
31-10	3次調査 (1989年)	—	卜骨素材	ウマ	(13.3)	(6.0)	(0.3)	(19.40)	—		表3次-5	—	1/3
31-11	3次調査 (1989年)	—	骨簪	鹿角	(2.1)	(1.0)	(0.8)	(0.87)	未製品		表3次-6	—	1/2
31-12	3次調査 (1989年)	—	卜骨	ウマ肋骨	(11.0)	(1.1)	(0.3)	(3.75)	欠損	縦半分に分れている 11カ所四角に削ってあり 孔がある	表3次-7	28-23	1/3
31-13	3次調査 (1989年)	—	卜骨	ウシ肋骨?	(9.3)	(3.1)	(0.2)	(5.63)	欠損		表3次-8	28-24	1/3

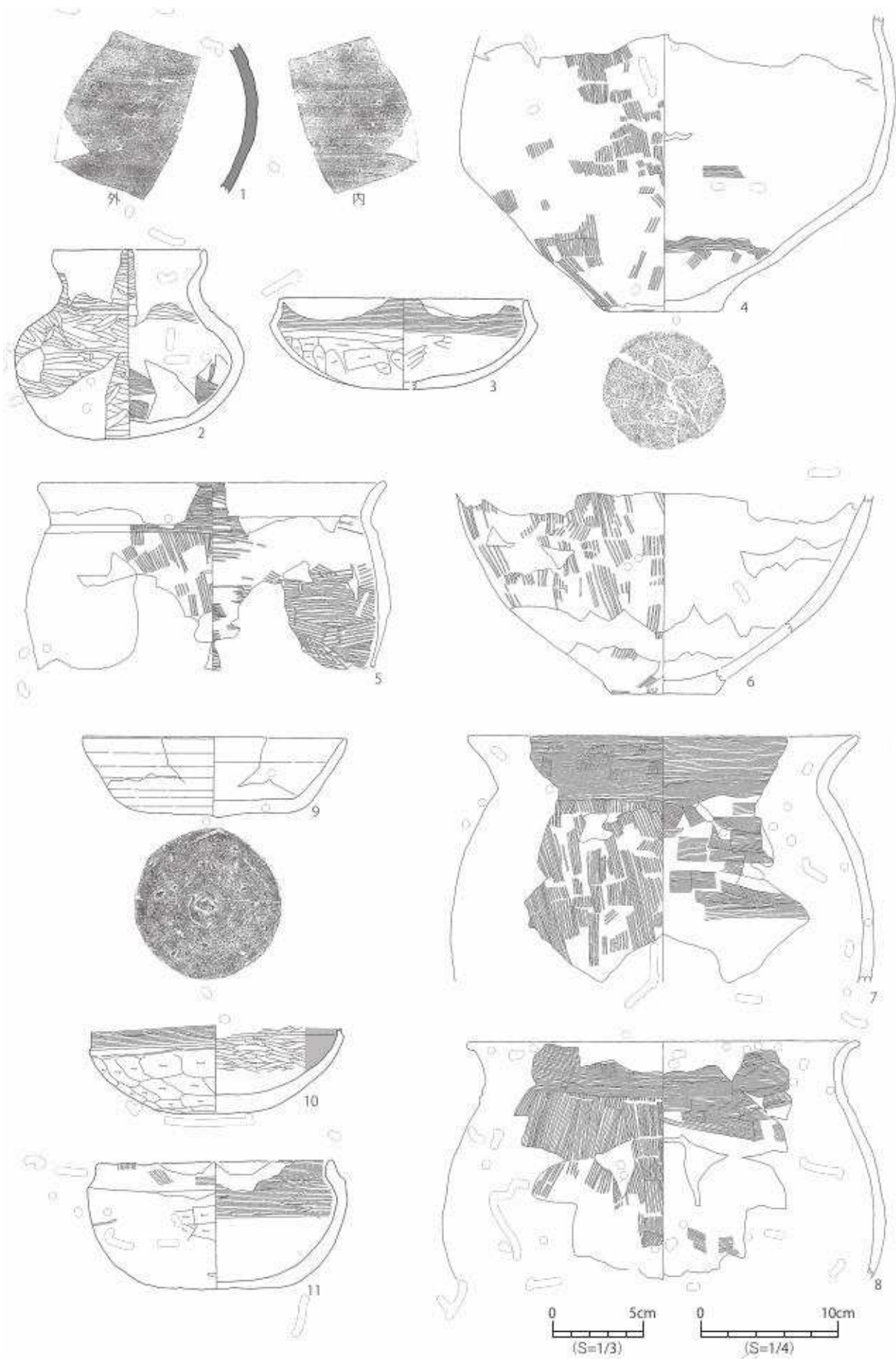
第31図 表浜貝塚(1~3次)出土土器・骨角製品



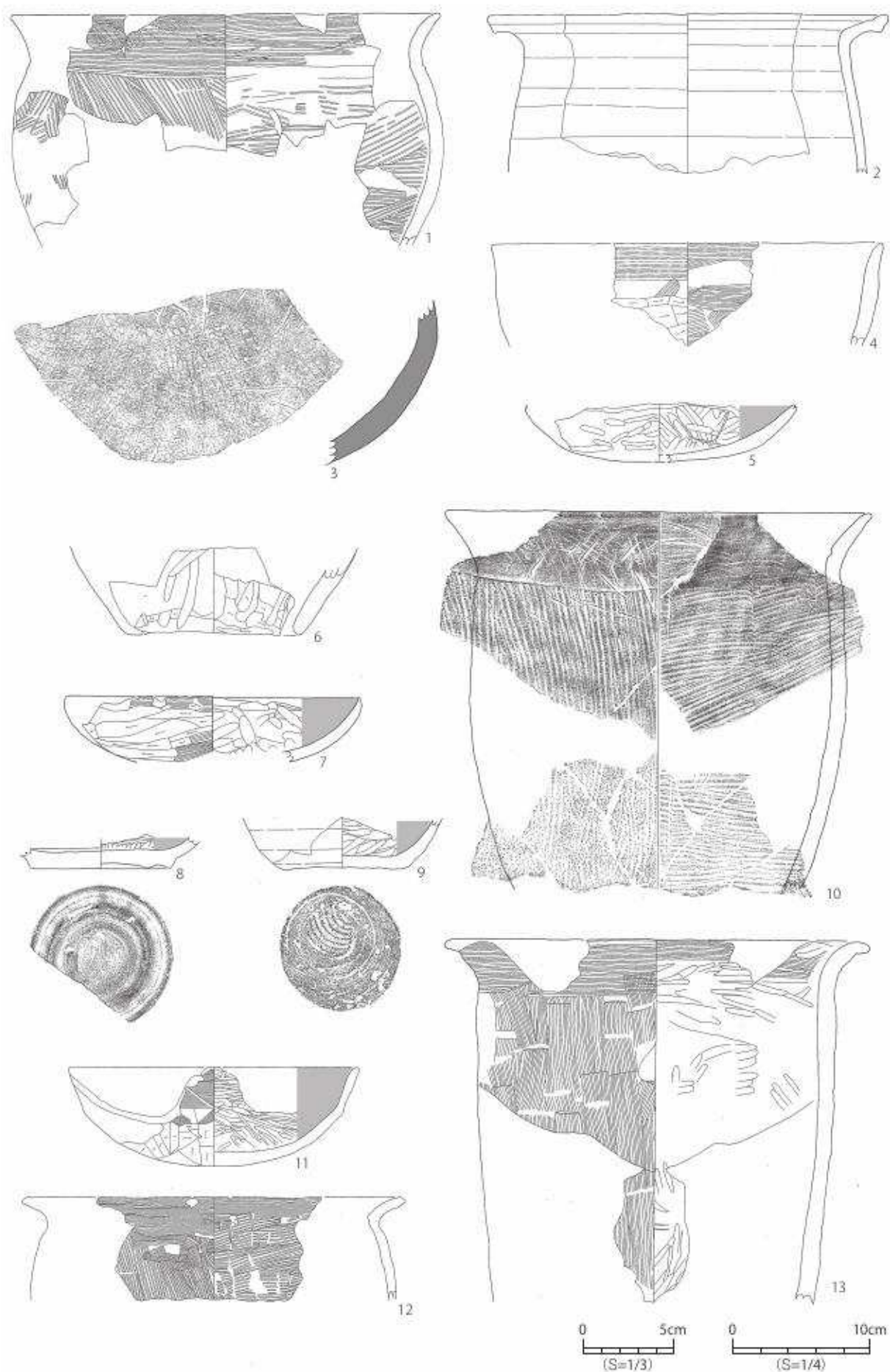
第32図 表浜貝塚出土土器 (1)



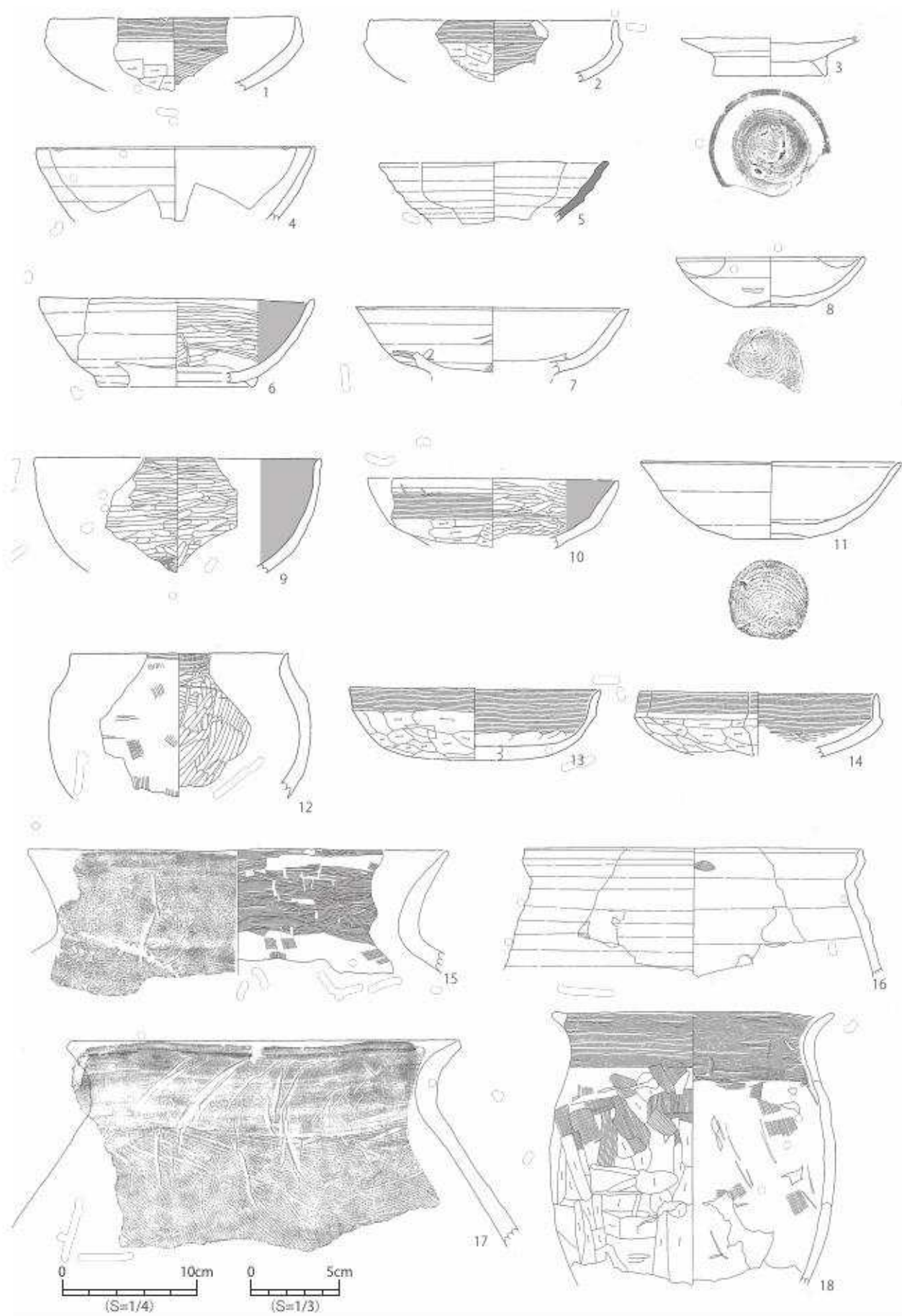
第33図 表浜貝塚出土土器 (2)



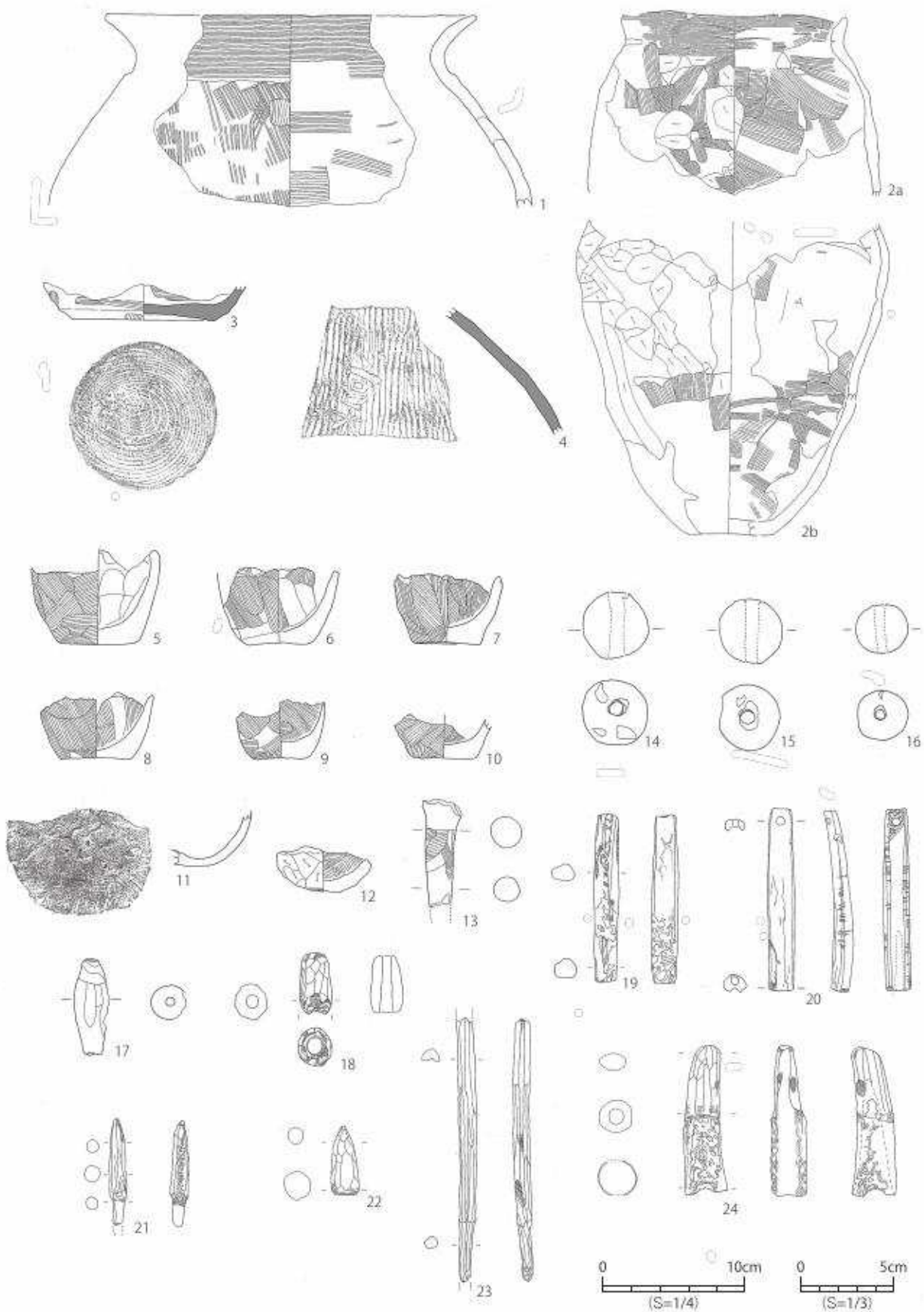
第34図 表浜貝塚出土土器 (3)



第35図 表浜貝塚出土土器 (4)



第36図 表浜貝塚出土土器 (5)



第37図 表浜貝塚出土土器(6)・土製品・骨角製品

番号	トレンチ遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真図版	縮尺
32-1	1トレンチ	4層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(23.8)	(7.2)	—	表1T-1	—	1/3
32-2	1トレンチ	4層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切→ナデ	(14.0)	4.3	(7.2)	表1T-2	—	1/3
32-3	1トレンチ	4層	土師器 坏	外面：ロクロナデ 内面：ミガキ→黒色処理	(13.3)	3.8	—	表1T-4	—	1/3
32-4	1トレンチ	4・6層	土師器 甕	外面：ケズリ、ナデ 内面：ハケメ、ナデ、ヨコナデ	—	(15.4)	8.0	表1T-7	—	1/3
32-5	2トレンチ	3層	須恵器 壺	外面：ナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転系切	—	(2.7)	(5.8)	表2T-16	—	1/3
32-6	2トレンチ	4層	土師器 坏	外面：ロクロナデ、ナデ、手持ちヘラケズリ 内面：ナデ、放射状ヘラミガキ→黒色処理 底面：回転系切	(14.6)	4.5	(9.8)	表2T-19	—	1/3
32-7	2トレンチ	4・5層	土師器 坏	外面：ロクロナデ→手ナデ、手持ちヘラケズリ 内面：ミガキ→黒色処理 底面：ヘラケズリ	(15.2)	4.3	(7.2)	表2T-10	—	1/3
32-8	2トレンチ	4層	土師器 小型壺	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ、炭化物付着 底面：回転系切→ナデ	—	(7.6)	6.1	表2T-8	27-1	1/3
32-9	2トレンチ SX2	4層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ	(17.4)	6.0	(7.5)	表2T-31	—	1/3
32-10	2トレンチ SL2	5層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(19.2)	(5.4)	—	表2T-15	—	1/3
32-11	2トレンチ	4層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(20.6)	(5.8)	—	表2T-17	—	1/3
32-12	2トレンチ	4層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(19.4)	(4.2)	—	表2T-18	—	1/3
32-13	2トレンチ	5層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(19.5)	(5.5)	—	表2T-27	—	1/3
32-14	2トレンチ	5層	土師器 甕	外面：ケズリ 内面：ヘラナデ	—	(5.7)	(15.0)	表2T-26	—	1/3
32-15	2トレンチ	5層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ	(12.9)	(3.1)	—	表2T-29	—	1/3
32-16	2トレンチ	5層	土師器 高台坏	外面：ロクロナデ 内面：ミガキ→黒色処理 底面：ナデ、墨書	—	(2.8)	(7.0)	表2T-25	—	1/3
32-17	2トレンチ	5層	土師器 坏	外面：ナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転系切	—	(1.4)	(8.0)	表2T-28	—	1/3
32-18	2トレンチ	5層	土師器 坏	外面：ロクロナデ→ヘラナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転系切	—	(2.0)	(6.5)	表2T-30	—	1/3

第35表 表浜貝塚出土土器観察表(1)

番号	トレンチ遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真図版	縮尺
33-1	2トレンチ	5層	土師器 甕	外面：ロクロナデ→回転ハケメ→ケズリ 内面：ロクロナデハケメ→ロクロナデ	(21.3)	(19.0)	—	表2T-9	—	1/3
33-2	3トレンチ	4層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：静止系切	(14.3)	3.6	(8.0)	表3T-42	—	1/3
33-3	4トレンチ	3層	須恵器 坏	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(13.4)	3.8	(7.8)	表4T-46	—	1/3
33-4	4トレンチ	3層	土師器 坏	外面：ロクロナデ→ヘラナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転系切	—	(3.5)	(7.0)	表4T-47	—	1/3
33-5	4トレンチ	3層	土師器 甕	外面：ナデ、ケズリ 内面：ナデ 底面：木葉痕	—	(3.9)	(6.2)	表4T-48	—	1/3
33-6	4トレンチ	3層	土師器 甕	内外面：ヨコナデ→ハケメ	(21.2)	(5.6)	—	表4T-44	—	1/3
33-7	4トレンチ	3層	土師器 甕	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラナデ	(20.4)	(4.4)	—	表4T-45	—	1/3
33-8	5トレンチ	表採	土師器 蓋把手	外面：ロクロナデ	天井径 3.0	—	(1.7)	表5T-49	—	1/3
33-9	7トレンチ	2層	土師器 皿	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	(9.2)	1.8	(4.4)	表7T-50	—	1/3
33-10	7トレンチ	2層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	14.7	4.6	6.0	表7T-54	27-2	1/3
33-11	7トレンチ	4・7層	土師器 甕	外面：ケズリ、ヘラナデ 内面：ハケメ、ヘラナデ 底面：木葉痕	—	(12.0)	8.1	表7T-55	—	1/3
33-12	7トレンチ	7層	土師器 甕	内外面：ハケメ	—	—	—	表7T-59	—	1/3
33-13	7トレンチ	7層	土師器 坏	外面：ヘラケズリ→ヘラナデ、ヨコナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	16.0	5.4	—	表7T-58	27-3	1/3
33-14	7トレンチ	2層	土師器 甕	外面：平行タタキ目、ヘラナデ、剥離 内面：輪積痕、アテ具痕、ナデ	—	—	—	表7T-52	—	1/3
33-15	7トレンチ	2層	須恵器 甕	外面：平行タタキ目→ナデ→灰軸→輪積痕 内面：アテ具痕→ナデ→輪積痕	—	—	—	表7T-53	—	1/3

第36表 表浜貝塚出土土器観察表(2)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真 図版	縮尺
34-1	7トレンチ	2層	須恵器 甕	外面：ロクロナデ→ヘラナデ、灰釉 内面：ロクロナデ	—	—	—	表7T-51	—	1/3
34-2	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 壺	外面：口縁ヨコナデ、ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ、ヘラケズリ 底面：ケズリ	—	(10.2)	—	表8T-68	27-4	1/3
34-3	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 坏	外面：口縁ヨコナデ、ミガキ、ケズリ 内面：ミガキ、ヨコナデ	(13.2)	(5.0)	—	表8T-73	27-5	1/3
34-4	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 甕	外面：ハケメ、剥離、磨滅 内面：ヘラナデ、全体的に剥離、接合部ハケメ 底面：木葉痕	—	(21.4)	(7.9)	表8T-74	27-6	1/4
34-5	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 甕	内外面：ハケメ→ヨコナデ	(24.3)	(13.5)	—	表8T-71	27-7	1/4
34-6	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 甕	外面：ハケメ 内面：剥離	—	(14.4)	7.6	表8T-75	27-8	1/4
34-7	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 甕	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ナデ	(27.8)	(17.7)	—	表8T-70	—	1/4
34-8	8トレンチ 貝層4	6層	土師器 甕	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ナデ→ヨコナデ	(27.9)	(17.2)	—	表8T-79	27-9	1/4
34-9	8トレンチ 貝層2	7層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ	(13.7)	4.1	8.1	表8T-81	—	1/3
	8トレンチ 貝層4	6層								
34-10	8トレンチ 貝層4	6層	土師器 坏	外面：ヨコナデ、ケズリ、輪積痕 内面：ミガキ→黒色処理、磨滅 関東系土師器の在り模倣品	(13.5)	(5.3)	—	表8T-77	27-10	1/3
34-11	8トレンチ 貝層4	6層	土師器 小型坏	外面：ミガキ、ナデ、ヨコナデ、ケズリ、磨滅 内面：ナデ、ヨコナデ、磨滅、ミガキ 底面：木葉痕	12.8	6.8	—	表8T-78	27-11	1/3

第37表 表浜貝塚出土土器観察表 (3)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真 図版	縮尺
35-1	8トレンチ 貝層4	6層	土師器 甕	内外面：ハケメ→ヨコナデ	(23.0)	(12.5)	—	表8T-83	27-12	1/3
35-2	8トレンチ 貝層4	6層	土師器 甕	内外面：ロクロナデ	(21.5)	(8.5)	—	表8T-86	—	1/3
35-3	8トレンチ 貝層4	6層	須恵器 壺	外面：ロクロナデ→平行タタキ目 内面：アテ具痕→ロクロナデ	—	—	—	表8T-85	—	1/3
35-4	8トレンチ SL3	13層	土師器 鉢	外面：ナデ、ヨコナデ、ケズリ 内面：ヘラナデ、ヨコナデ	(20.8)	(5.5)	—	表8T-113	—	1/3
35-5	8トレンチ SL3	14層	土師器 坏	外面：ミガキ、ヘラミガキ、ナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 線刻「十」	(14.4)	3.5	—	表8T-87	—	1/3
35-6	8トレンチ SL3	14層	土師器 甕	内外面：ケズリ→ミガキ	—	(4.7)	(9.2)	表8T-88	—	1/3
35-7	8トレンチ	3層	土師器 坏	外面：口縁ヨコナデ、ケズリ→ナデ 内面：ヘラミガキ、ナデ→黒色処理	(15.7)	3.6	—	表8T-61	—	1/3
35-8	8トレンチ	3層	土師器 高台坏	外面：ロクロナデ 内面：放射線状ミガキ→黒色処理 底面：回転系切→ロクロナデ、削り出し内盤高台	—	(1.7)	7.5	表8T-62	—	1/3
35-9	8トレンチ	3層	土師器 坏	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：回転系切→ロクロナデ	—	(2.7)	6.5	表8T-63	—	1/3
35-10	8トレンチ 貝層2	3-7層	土師器 甕	内外面：ハケメ→ヨコナデ	(22.8)	(20.3)	—	表8T-76	27-13	1/3
35-11	8トレンチ	4層	土師器 坏	外面：口縁ヨコナデ、ケズリ、ナデ、ヘラミガキ 内面：ミガキ→黒色処理	—	(7.0)	—	表8T-64	—	1/4
35-12	8トレンチ	5層	土師器 甕	内外面：ヨコナデ、ハケメ	(27.0)	(7.4)	—	表8T-67	—	1/4
35-13	8トレンチ	4層	土師器 甕	外面：ヨコナデ、ナデ→ケズリ、ミガキ 内面：ヨコナデ、ミガキ	(21.7)	(19.6)	—	表8T-65	—	1/3

第38表 表浜貝塚出土土器観察表 (4)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真 図版	縮尺
36-1	9トレンチ	2層	土師器 坏	外面：口縁ヨコナデ、ケズリ 内面：ヨコナデ、ヘラナデ	(13.6)	(4.0)	—	表9T-103	27-14	1/3
36-2	9トレンチ	2層	土師器 坏	外面：ヨコナデ、ケズリ、ミガキ 内面：ヨコナデ、ミガキ	(13.6)	(3.4)	—	表9T-115	27-15	1/3
36-3	9トレンチ	2層	土師器	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切→高台接合→ロクロナデ	—	(2.1)	6.2	表9T-105	—	1/3
36-4	9トレンチ	2層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ	(15.1)	(4.0)	—	表9T-91	—	1/3
36-5	9トレンチ	2層	須恵器 坏	内外面：ロクロナデ	(12.6)	(3.4)	—	表9T-102	—	1/3
36-6	9トレンチ	2層	土師器 高台坏	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 底面：高台接合→ロクロナデ	(15.0)	4.9	(8.4)	表9T-93	—	1/3
36-7	9トレンチ	2層	土師器 高台坏	内外面：ロクロナデ	(15.0)	(3.7)	—	表9T-90	—	1/3
36-8	9トレンチ	2層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	(10.4)	2.7	(4.2)	表9T-92	—	1/3
36-9	9トレンチ	2層	土師器 壺	外面：ヘラミガキ、ヘラナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.7)	(6.2)	—	表9T-104	—	1/3
36-10	9トレンチ	3層	土師器 坏	外面：ヨコナデ、ケズリ 内面：ミガキ→黒色処理	(13.8)	3.7	—	表9T-108	27-16	1/3
36-11	9トレンチ	2層	土師器 坏	内外面：ロクロナデ 底面：回転系切	(14.2)	3.7	4.2	表9T-106	—	1/3
36-12	9トレンチ	3層	土師器 鉢	外面：ヨコナデ、ヘラナデ 内面：ミガキ、ヨコナデ	(11.9)	(8.0)	—	表9T-94	—	1/3
36-13	9トレンチ	7層	土師器 坏	外面：ヨコナデ→ケズリ 内面：ヨコナデ、ナデ 関東系土師器の在り地模倣品	(13.6)	(4.0)	—	表9T-99	27-17	1/3
36-14	9トレンチ	表探	土師器 坏	関東系土師器(搬入品) 外面：口縁ウルシ塗付、ヨコナデ、ケズリ 内面：ヨコナデ、ミガキ	(13.0)	(4.0)	—	表9T-109	27-18	1/3
36-15	9トレンチ	2層	土師器 壺	外面：口縁ハケメ→ヨコナデ、ハケメ 内面：口縁ハケメ→ヨコナデ→ハケメ、ヘラナデ	(30.8)	(9.0)	—	表9T-89	28-1	1/4
36-16	9トレンチ	3層	土師器 壺	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ、指ナデ	(24.8)	(9.5)	—	表9T-107	—	1/4
36-17	9トレンチ	3層	土師器 壺	外面：ハケメ→ヨコナデ 内面：ナデ、ヨコナデ	(28.6)	(15.3)	—	表9T-97	28-2	1/4
36-18	9トレンチ	4層	土師器 壺	外面：ヨコナデ、ヘラナデ、ミガキ、ケズリ 内面：ヘラナデ、ヨコナデ、ナデ 磨減、剥離	(20.5)	(20.0)	—	表9T-98	28-3	1/4

第39表 表浜貝塚出土土器観察表 (5)

番号	トレンチ 遺構	層位	器種	特徴等	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	登録番号	写真 図版	縮尺
37-1	9トレンチ	7層	土師器 壺	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ、ナデ	(19.4)	(10.1)	—	表9T-100	—	1/3
37-2a	9トレンチ	3-4層	土師器 壺	外面：ヨコナデ、ヘラナデ→ケズリ 内面：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	(15.7)	(12.6)	—	表9T-95	28-4	1/4
37-2b	9トレンチ	3-4層	土師器 壺	外面：ケズリ、ヘラナデ 内面：ナデ 底面：木葉痕	—	(22.0)	5.6	表9T-96	28-5	1/4
37-3	10トレンチ	3層	須恵器 坏	外面：ロクロナデ、ナデ 内面：ロクロナデ 底面：回転系切、格子状線刻	—	(1.8)	7.5	表10T-110	—	1/3
37-4	13トレンチ	3層	須恵器 壺	外面：平行タタキ目、線刻「宮木」 内面：アテ具痕、ナデ	—	—	—	表13T-112	28-6	1/3
37-5	3トレンチ	4層	手捏土器	内外面：指ナデ 底面：ヘラナデ	—	4.9	4.0	表3T-33	28-7	1/3
37-6	3トレンチ	4層	手捏土器	外面：口縁指オサエ、指ナデ 内面：指ナデ	—	4.1	(3.2)	表3T-38	—	1/3
37-7	3トレンチ	4層	手捏土器	外面：ナデ 内面：指ナデ	—	3.6	(3.4)	表3T-36	—	1/3
37-8	3トレンチ	4層	手捏土器	内外面：指ナデ	—	3.4	3.6	表3T-37	28-8	1/3
37-9	3トレンチ	4層	手捏土器	外面：ヘラナデ、ケズリ 内面：ヘラケズリ	—	(3.0)	3.0× 2.6	表3T-39	28-9	1/3
37-10	3トレンチ	4層	手捏土器	内外面：指ナデ	—	(2.3)	3.3	表3T-35	—	1/3
37-11	3トレンチ	4層	手捏土器	内外面：ヘラナデ	—	—	—	表3T-34	—	1/3
37-12	7トレンチ	4層	手捏土器	外面：ケズリ、ナデ 内面：ナデ	5.0	2.4	—	表7T-57	—	1/3
37-13	13トレンチ	3層	製塩土器	ケズリ、ナデ 径：1.6cm	—	(5.6)	—	表13T-111	28-10	1/3

番号	トレンチ 遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	最大厚 (cm)	状 況	特徴等	登録番号	写真 図版	縮尺
37-14	2トレンチ	3層	土鐘	3.5	3.4	0.8	完形	内外面：指ナデ	表2T-32	28-11	1/3
37-15	3トレンチ	4層	土鐘	3.2	3.3	0.8	一部欠損	内外面：指ナデ	表3T-40	28-12	1/3
37-16	9トレンチ	2層	土鐘	2.5	2.7	0.6	完形	指ナデ、ミガキ	表9T-101	28-13	1/3
37-17	8トレンチ	表探	土鐘	5.0	1.8	0.4	完形	ケズリ、ナデ→ミガキ	表8T-66	—	1/3

番号	トレンチ 遺構	層位	分類	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	状 況	特徴等	登録番号	写真 図版	縮尺
37-18	3トレンチ	4層	弧状角製品	鹿角	3.2	径1.7	—	7.87	完形	内径0.8×0.9cm	表3T-116	28-14	1/3
37-19	7トレンチ	4層	複合釣針	種不明歯牙	(8.9)	(1.5)	(1.1)	(15.78)	未製品		表7T-117	—	1/3
37-20	8トレンチ 貝層2	7層	複合釣針	鹿角	(9.6)	(1.4)	(0.7)	(11.16)	未製品	孔径0.4cm	表8T-118	28-15	1/3
37-21	8トレンチ	5層	骨鏃	鹿角	(5.5)	(0.8)	—	(2.36)	欠損		表8T-119	—	1/3
37-22	8トレンチ	5層	鋸頭	鹿角	(3.6)	径1.4	—	(4.56)	未製品		表8T-120	—	1/3
37-23	8トレンチ 貝層4	6層	骨鏃	ニホンヅカ 中手/中足骨	(13.3)	(0.9)	(0.6)	(8.04)	欠損		表8T-121	28-16	1/3
37-24	9トレンチ	2層	頭?	鹿角	8.9	径2.2	—	15.25	完形	内径2.0×1.8cm 深さ6.0cm	表9T-122	28-17	1/3

第40表 表浜貝塚出土土器 (6)・土製品・骨角製品観察表

7 農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡

農山漁村地域復興基盤総合整備事業は宮城県が事業主体となり、町内の津波被災農地約143haを対象に農地の区画整理、用排水路改良工事等を実施する農地基盤整備事業である。事業地は阿川工区、下田工区、中田工区、花瀨工区、吉田工区、代ヶ崎工区の6工区に分かれ、平成25～32年度の8ヶ年事業である。平成25年度に宮城県仙台地方振興事務所農業農村整備部より事業計画の提示を受け、複数の周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内において事業が行われることが判明したため、宮城県教育庁文化財保護課との三者で協議を行った。その結果、計画地内に所在する林崎貝塚、阿川沼貝塚、沢土貝塚、東原遺跡、二月田貝塚、神明遺跡、笹山貝塚、鼻節神社遺跡、花瀨城跡の9遺跡のうち花瀨城跡を除く8遺跡について、事業計画の調整等を図るために、早期に遺跡の範囲及び内容等を把握する必要があるとの判断から、平成26年度に確認調査を実施した。調査の結果、林崎貝塚、二月田貝塚では計画地内において縄文時代晩期・弥生時代中期の遺構や遺物を確認し、それ以外の遺跡では遺構・遺物は確認されなかった。遺構が確認された両遺跡については、調査成果を受けて関係機関と再度協議を行い、遺構面に影響のない施工ルートや工法への変更を行うこととなった。現在も事業が進行中であることから、今後も必要に応じて工事立会いや確認調査を実施する予定である。花瀨城跡については、丘陵麓での既設排水溝の改修であることから、遺跡に対する影響が少ないと判断し、改修工事の際に工事立会いを行った。各遺跡の調査成果については、以下のとおりである。尚、確認調査にあたっては宮城県仙台地方振興事務所農業農村整備部水利施設保全班の協力を得た。

7-1 林崎貝塚(第38～47図、写真図版13～17・29)

(1) 遺跡の概要

林崎貝塚は七ヶ浜町松ヶ浜字新林崎地内に所在する縄文時代晩期、弥生時代中期の貝塚・製塩遺跡である(第39図)。遺跡は諏訪神社前遺跡の東側から海水が流入し形成された古阿川湾の最奥部に位置し、北側に開けた谷部の斜面～低地にかけて立地する。現況は水田、道路である。周辺には鬼ノ神山貝塚や阿川沼貝塚、笹山貝塚、諏訪神社前遺跡など縄文時代晩期中葉～末葉(大洞C2～A'式)、弥生時代中期の貝塚・製塩遺跡が点在しており、本遺跡もこうした製塩遺跡群の一つと考えられる(第38図)。

水田面やその周辺には破碎された貝殻や製塩土器片などが濃密に散布しており、調査以前から製塩遺跡として把握されていたが、詳細な調査が行われていないため、過去の開田工事により大部分が滅失したと考えられていた。しかし、平成20(2008)年に天然ガスパイプライン敷設工事に伴い町道部分の確認調査を行ったところ(第40図)、道路下から破碎された製塩土器片や貝類を含む遺物包含層を検出し、縄文時代晩期中葉(大洞C2式新段階)の赤彩された小型壺と小型深鉢(第44図1・2)、製塩土器等が出土した。また、刻みをもつ隆帯がV字状に乳房と腹部を繋ぐように貼り付けた土偶が過去に表採されている(常松2001)。

(2) 調査要項

遺跡名 林崎貝塚(宮城県遺跡地名表登録番号 20001)

調査地 七ヶ浜町松ヶ浜字新林崎地内

調査担当 田村正樹(七ヶ浜町教育委員会)

調査期間 平成26(2014)年5月8日～7月18日

対象面積 約3,455㎡

調査面積 79㎡